

歐亞局長

第一課

記録件名 北樺太石油株式会社関係書類

外務大臣 北樺太石油株式会社関係書類

北海道庁長官 戸部 九 一 郎

内務大臣 安井 英 殿

外務大臣 松岡 洋 殿

拓務大臣 松岡 洋 殿

参謀部 参謀 長 殿

内務部 参謀 長 殿

大蔵省 参謀 長 殿

陸軍省 参謀 長 殿

海軍省 参謀 長 殿

北樺太石油株式会社関係書類

北樺太石油株式会社関係書類ニ関スル件

東京市麹町区丸の内丸ビル内北樺太石油株式会社所有  
貨物汽船 あ は 丸 九九。四。四。

右汽船ハ容月二十四日同社北樺太石油株式会社所有  
物資送込ミヲ為シ現地就労歸還者社員一五労働  
者一〇四及客年十一月二十六日北樺太石油株式合  
ニ於テ遭難セル神戸市興國汽船株式会社所有汽  
船岩山丸船員其ノ他五五計一七四名ヲ便乗同月  
二十八日管下小樽ニ帰港セルカ入港ニ際シ嚴重  
検索ノ結果格別答疑ノ莫認メラレザルモ帰還者  
中携行シ来レル最近北樺太石油ニ於テ發行新聞  
紙サハリンスキトネフチヤーニフ莫斯科イノド  
ストーリア十八部(内容一部取出現品ハ内相閣  
下へ添付)並同地外國労働者出版所發行日本文  
宣伝印刷物別記十二部ヲ入手セルカ尙帰還者名

簿及之等ノ齎セル北樺太オハ地方並怡山丸遭難  
諸状況左記ノ通ニ有之  
右及申(通)教候也  
記

一、ソ聯官憲ノ配備及取締状況

の内務人民委員

オハ市街ニ本部ト認めラル、モノ在リ國境守  
備隊トモ連絡ヲ密ニシ居リテ殊ニ防諜ニ関ス  
ル取締嚴重ナルカ内容詳細不明ナリ

尚オハ海岸ヨリ約四〇間位ノ平坦ナル箇所ニ  
前記支所トモ看ルベキ詰所アリ(普通海岸警  
備隊ト称ス)隊長ハ陸軍大尉級ニシテ隊員十

ニ三名アル模様ニテ会社関係事業ノ全部ハ此  
ノ嚴重ナル監督ヲ受ケタメニ我が権益タル企  
業モ危機ニ直面スル事再々アリト謂ハル

の民警署

オハ民警署ハ署長以下七〇名位勤務シ居リテ  
本邦ノ行政警察ノ如キ職務ヲ執リ居ル模様ナ  
ルカ特ニ蘇聯人及之ト関係アル日本人ノ動靜  
ニ就キ関心ヲ有シ居ル如ク觀取セラレ

の税関

オハ海岸ヨリ三百米位高レタ箇所ニ出張所ア  
リ寧ニ署下以下五名位詰居ル模様ナルカ船舶  
ノ出入繁忙ノ場合ハ亞港附近ニアル、モスカ

リウホーヨリ鉄道ニ依リ樺岡吏出張シ来リ  
内渡ニ携帶品ノ検査嚴重ナリ

鉾山署

日本領事館ノ北方近キ場所ニ在リ今署ハ又鉾  
山監督トモ稱シ居ルガ署長一名鉾山監督ニ名  
技術監督一名火防監督一名經濟技師一名衛生  
監督一名地質係一名合計八名位勤務シ居リ主  
トシテ對日系会社ニ對スル監督機關ト目サル  
、如ク会社業務ノ妨害取締ヲ為シ居レル觀ア  
リ

鉾山労働委員会

北樺太石油関係ノ事務ヲ執ル者ハ僅カニ一。

名程度ナルガ目的トスル處ガ各種労働法規ニ  
基ク労働者ノ生活権擁護労働契約待遇問題並  
工場、礦場ノ監視ヲ主トシテ掌リ居ルモノ、  
如ク労働者保護取締ニ名ヲ著リ事毎ニ干涉ス  
ルオハハ人氏裁判所ト目サル、モノアリ第一  
審ナリ普通全地ニテ上訴セバ臣港裁判所ニ廻  
ハサシ居ル如シ

外務人氏委員部出張所アリ係員一名ノ模様ニ  
シテ我が領事館トノ接遇ニ從事シ居ルモノ、  
如シ

同地測候所ハ地上觀測ノ行ヒ天氣豫報ハナ  
サズ



以上ノ外オハニハ郵便局 國營銀行支店電話局  
電燈所發電所運送社等アリ

ニ會社及邦人ニ對スル圧迫狀況

①日用品配給狀況

日用品ノ配給ハ會社ヨリ交付サル、ガ之カ北  
樺太現地ヘノ輸送ノ場合ハ蘇側ノ査證ヲ要ス  
ル結果年々<sup>（査證）</sup>不當ノ拒否或ハ制限ヲ付ス為種々  
ナル紛議ヲ醸シ感情的ニ物分レトナレルコト  
アリ蘇聯テハ其ノ憂サ靖ラシ的ニ會社ニ無理  
難題ヲ次掛ケル狀況顯著ニテ尙規則ヤ契約ニ  
依ツテ蘇聯人勞働者ニハ邦人勞働者ヨリモ物  
資ヲ多ク支給セントシ居レル傾向アリ

②本邦勞働者ノ關係

③勞働條件

ソ聯人ト同様一日ノ勞働時間ハ七時間制度  
ニシテ月ニ一六八時間ト大体決定シ居リ休  
憩トシテ其ヘラレタ時間ハ昼食ノ際ニ二時  
間トナシ居ルカ然シ蘇聯人ハ出鱈目ニテ就  
勞中ニ於テモ勝手ニ休憩シタリ殊ニ會社ソ  
聯人勞働者ハ同國監督ノ居ル場合ハ働カズ  
會社ノ事業能率ヲ阻害スル如ク余セラレ居  
ル模様ナリ、其ノ為日本人勞働者ニ比シ稼  
働能率悪シ

其ノ他奈日ハ勞働法ニ依リ一般的ニ行フモ

ノト地方的ニ行フモノトアリ特ニ革命記念  
日ニ重キヲ置ク模様ナリ日曜日ハ五日判ヲ  
採用シテ六日毎ニ休業サセ之ニ違反シタ  
ル者ハ嚴罰ニ處セラレル結果之レ以上絶対  
懲罰ニ得ザル状態ナリ

④物資ノ取締ノ状況

日本ヨリ送込ミ物資中馬鈴薯ノ發芽シタル  
物ハ有害ト稱シテ殊更ニソ聯労働者ノ居室  
地附近ニ投棄セシム然ルニソ聯労働者ハ之  
ヲ競フテ拾得スル状況ナルガ如何ニ不当ナ  
ル举措ヲ爲セルヤ明瞭ナリ

其ノ後最近ニ至リ漸ク態度ヲ改メ検査不悪  
品ハ船舶ヲ以テ沖合ニ投棄セシムルニ至レ

⑤裁判所關係

日本ノ常識トシテ推考ニ得ザルガ如キ些細ノ  
事案ト虽モ時々爲シ呆然トスル場合アリ火防  
設備ノ不備或ハ衛生掃除不充分トシテ微細ノ  
点迄摘發シ直ニ一。留程度ノ罰金ヲ科スル  
状況ニテ控訴セバ加重サル、等ノコトアリテ  
日本ノ裁判ノ如キ一種ノ嚴罰アル裁定ナシ、  
⑥物資ノ需給ニ對スル取締  
会社關係ソ聯労働者九五。名(家族ヲ合セ  
給三六。名アリ之等ニ對スル生活用物資ノ

配給ハソ聯側ノ配給ニ比較シ安価ニシテ幾分  
豊富ナル所ヨリソ聯側官憲ハ嚴重警戒監視シ  
ソ聯側配給ノ不足ヲ極力隠蔽シ居ル如ク観取  
セラル

### 三、謀報活動ノ状況

#### イ、防諜活動ノ状況

(1) オハ地方ニ於テハ日本人ト業務以外ノ会話  
ハ極度ニ之ヲ制限シ又特ニ一定ノ地域ニハ  
通行立入りヲ禁ズ寫真撮影ヲ才聽取モ全  
様ニシテオハ工場現地ニ於テ知得セル事項  
ヲ日本内地ニ通報スルニ非ズヤト常ニ警戒  
シ居レル模様ナリ

(2) 日本人トノ接近ヲ極度ニ警戒シ居ル模様ナ  
ルが会社雇傭ソ聯人労働者中時々無届行衛  
不明ノ者アリ之等ハ謀報其ノ他ノ嫌疑ヲ以  
テ引致セラレタルモノト認めラル

(3) ソ聯人ハ一般ニ表面上同國官憲ニ對シ服従  
的態度ヲ示シ居ルが帝政時代ノ善政ヲ慕ヒ  
居ル者多数アル如クニシテ又宗教ヲ禁セラ  
レ居ルニ不拘老年者中私ニ基督教ヲ信仰シ  
居ル者アリ

ソ聯一般民ハ其ノ大部分古典的藝術ヲ好ミ  
詩歌等モ帝政時代ノモノヲ礼讃シ居ルモノ  
アル莫認メラル、ガソ聯官憲ハ之等ヨリ末

ル及國家思想ノ取締ヲ爲スト共ニ同人等ニ  
對スル防諜警戒ヲ嚴ニシ居レル狀況親取セ  
ラル

## 2. 國情偵知

① 邦人露語通訳ニ對シ係事務上ノ不備欠陥ヲ  
指摘シ且ツ戒嚇シ、スパイトヲ強要シ國情  
ヲ聽取セントシタル事實アリ尚北樺太石油  
株式会社通訳合田ノ言ニ依レバソ聯ニハ如  
何ナル機關ニ屬スルヤ不明ナルガ相当多數  
ノ軍事探偵トモ稱スル私販員ガ邦人勞働者  
中比較的オハニ長キ越年者及有識者ト認ム  
ル者ニ對シ作業終了後現場ヨリ宿舎ヘノ帰

途等ヲ待チ合セ蔭ニ連行シテ今晚ノ何時迄  
ニ何處迄誰ニモ語ラズニ出頭スル様命ジ万  
一之ニ反シタル際ハ嚴罰ニ處スル旨ヲ告ゲ  
戒嚇的ニ出頭ヲ命ズルガ如キコト再三アリ  
タルガ同地ニ於テ核働中ノ木下、高橋、小  
川等ハ同様ノ手段ニテ取調べヲ受ケタリト  
云フ

以上不法出頭ヲ命ゼラレタル三名ハ此ノ旨  
誰ニモ語ラズ出頭シタルコト後ニ判明鉦業  
所長ヨリ今後斯ノ如キ出頭ヲ命ゼラレタル  
際ハ如何ナル場合トモ一應申出テ措置ス  
ル様注意ヲ受ケタル趣ナルガ尚之ニ出頭シ

タル三名ハ「日本人労働者ハ無智ノ為人何  
等國情等不明ナリ」ノ一頁張リニ答弁シタ  
ル模様ナリ

四 会社ノ大工ガ洋服ノ販売ヲ為シタルニ名ヲ  
藉リ其ノ取調ベノ際、スパイスルナラ免罪  
ス尚様太ニ軍隊居ルカ要塞ハ何處ニアルカ  
等誘導訊問シタル事實アリタリ、

#### 四 軍事設備ノ状況

のオハ市街及其ノ附近ニハ歩兵、騎兵、砲兵、  
工兵、航空兵等ヲ合シタ一重團アリトノコト  
ナルカ隊長ハ大佐級ニシテ其ノ数約一五〇〇  
乃至二〇〇〇名位駐屯シ居ル模様ナリ、

クト、湖落日南方丘ニ海軍飛行場アリ此ノ場  
所ヨリア港、哈府、厄港間至由ノ定期航空ア  
リ格納庫五、六棟アル如ク尚オハ市北方ト  
ウクイ湖落日南側丘ニ陸軍飛行場アリ但シ冬  
期間ハ北樺太各湖ハ凍結シ絶好ノ飛行基地ト  
成ルヲ以テ、ウルクト、湖ノ如キハ最モ利用  
セラレ居ルトノ風聞アリ  
ソ聯軍人兵舎ハ、オハ市街北端「エヌ、カ」  
グエー、デー、ニ隣接スル所ニ在リ大ナル收  
容カヲ有スルト謂ハル、ガ右附近一帯ハ立入  
禁止セラレ居ルヲ以テ的確ナル数字ハ不明ナ  
リ、



(2) 北樺太ニ於ケルソ聯飛行機ハ夏季フロートヲ  
附シ冬ハ橈ヲ裝備シ居リ一日三四回位飛翔ス  
ルコトアリ尚、ノークリック、附近ニハ陸軍飛  
行場アリ昭和十二年九月頃ヨリ感ニ着手セル  
模様ナルガ其ノ附近ニ歩兵ト認メラル、軍隊  
四五十名位駐屯シ居テ射撃演習ヲ為シ居レル  
ヲ見受ケタルガ翌十三年九月頃ニ至リ哨兵ノ  
警戒嚴シク詳細不明ナリ

(3) 防塞等ノ施設アル如キモ会社利権地域外ノ交  
通ハ一概ニ制限セラレ居ル為メ詳細不明ナリ  
必軍隊ノ移動状況

(4) ソ聯軍ハ演習等ノ為メ大砲ヲ牽引機刺銃其  
ノ他ノ兵器ヲ荷ヒ道路ヲ進行スルヲ屢々見  
受ケルガ其ノ数内容等詳細不明ナルモ相当  
活潑ニ行ハレ居ル模様ナリ

マスカリウオ、オハ、向ノ広軌鉄道ニ依リ  
一ヶ年ニ回乃至三四回無蓋車ヲ以テソ聯兵三  
百名位宛輸送スルヲ認メタルガオハ市街ヨ  
リ北方約ニ里ノ地莫ヨリ其ノ鉄道線路ニ至  
ル迄幅五六間位ノ道路アリ、マスカリウオ  
ニハ築港設備有リト謂ハレ常ニ二、三千吨  
ノ船舶ガ物資輸送ヲ為シ居ル模様ナリ

(5) 本年五月、メーデー、ノ際参加セル軍隊ハ  
馬四頭曳分解式歩兵砲七門ニ種類ノモノ認

メタリ高戦車ハ約十名位オハ附近ニ配置シ  
アル模様ニシテ此ノ外騎兵十騎行進スルヲ  
認メタリ

防空訓練

防空訓練ハ毎年春秋ニ回ニ亘ツテ施行セラル  
カ本年ハ未ダ施行セズ

防空監視哨ト認ムルモノナク警報ハ昼夜間共  
サイレンヲ以テ一般ニ伝ヘ燈火管制ニハ資材  
不充分ノ為一般ニ完備ヲ期シ難ク計画モ小規  
模ナリソ聯住民ノ多クハ防空觀念ニ乏シク軍  
ニ命ゼラルカ所ニ参加シ居ル如クニシテ熱  
意ナク徹底シ居ル 状況ニシテ尚燈火管制

中ハ一般ノ外出ヲ為サシメザル様指導シ且  
業務ハ継続スル様取締居ル如シ

五 赤化思想宣伝状況

一 一般ノ聯人ニ對スル警戒指導

一般ノ聯人ニ對スル共產主義及ソ聯政府ノ政  
策宣伝指導ハ実ニ巧妙ニシテ青少年層ニ主力  
ヲ注ギ壯年及老年層ニハ指導ノ外ニ警戒ヲ加  
味シタル宣伝方法ヲ為シ居ル模様ナリ

二 日本人ニ對スル宣伝

現在日本人ニ對シテハ積極的宣伝ヲ為サズ寧  
口消極的ナル警戒多ク從ツテ何等最近ハ新宣  
伝トシテ認メラルモノナキモ本年五月一日

ノミナリトシニ際シ降参勞働者近江辰三邊ノ言  
ニ依レバソ聯人勞働者ハ午前十時頃集合シ露  
人市街ヲ團體的行動ノ下ニ露西並小學校ニ集  
台セリ該小學校ニ於ケル模様ニツイテハ日本  
領事ノ命ニ依リ觀覽セザリシモ相当盛大ヲ極  
メタル狀況ナリ

俱樂部ニハ映画室、理髮店、圖書室其ノ他囲  
碁、將棋、麻雀等ノ娛樂ノ備ヘアリ

映画ハ漫画ニ類セルモノ多ク露語ヲ解セザレ  
バ何ヲ風刺シテ居ルヤ不明ナリ尚俱樂部及露  
人宿舎ノ牧草場等ニハ独逸ヲ標示セルコトナ  
スマルクト伊太神勅標示スルコトアリ  
ノク日本ヲ標示スル櫻花ヲ取ツタモノヲ  
左瓏ニ標示セル三名ガ独逸ハ大キク画キ伊太  
利ハソレニ並ギ日本ハ最モ小サク画キテ露人  
ノ搭乘セル飛行機ヨリ爆彈ヲ投下セラレル  
メ大口ヲ開イテ逃走スル有様ヲ風刺セル宣  
ホス夕一ヲ貼付シタルガ右ハ二年頃ヨ  
リアリタルモノ如ク他ノ一ハ大蛇ニ事ヨセ  
頭部ヲ日独伊三様ニ標シテハ大蛇ニ事ヨセ  
カ之ヲ脚ニテ右大地ニ標シテハ大蛇ニ事ヨセ  
ル祿相ノホスタトモ見ケラレ日、獨、伊ニ  
舞シ闘争意識ヲ表シテハ大蛇ニ事ヨセ  
若公ニ事ハ新聞發行者一聽ハ大蛇ニ事ヨセ



「不」子ヤネフ、之ヲ通シ、同地方ニ對スル國策ノ宣伝ニ努メ居ルガ歸還者中最近ノモノト入部携行セルヲ以テ其ノ内容ノ一部訳出別記セルカ同新聞紙ハ内相閣下ニ添付ス而シテ右新聞紙ハ日刊ニテ其ノ詳細ハ英國及日本ノ憲詳ニ終始シ居ル如クニシテ世ノ決定前或ニ強運ヲ罵倒セルモ最近ハ其ノ論調ヲ變更シ居ル狀況ナリ尙此外（註）小冊子「日本ニ於ケル階級の労働組合運動ノ決定的任務」莫斯科外國労働出版所發行外十一部別記歸還者ノ携行セルヲ入手セリ

（四）オハニ於テ一紙ニ觀覽セシメタル映画

歸還労働者中オハニ於テ四回映画ヲ觀タルカ充分露國語ヲ解セザル為メ專領ヲ得ズ内ニ回ハ左記訪書ノモノヲ撮影シ居リ當時日本人労働者ヲ多數觀覽セシメントシツ、アリタル狀況ヨリシテ思想謀畧或ハ何等カノ懷柔ノ為利用セントセルニ非ズヤトモ認めラレ

（五）階切番カ鉄道警戒中悪漢ニ襲ハレ遂ニ崖ヨリ落サレ倒レテ居ル處ヲ其ノ鉄道番ノ子供ガ鉄道ノ破損シテ居ル處ヨリ附近ヲ注意シタルニ父ガ死シタノ様ニナツテ居ルノテ驚キ助ケ且ツ其ノ時驚進シテ末夕汽車ニ危険信號ヲシテ停止セシメ手柄ヲ立テ尙悪漢ハ捕

ヘラル

④ソ満國境ヲ越境セル日本將校ト兵ニ名ガ突  
然現ハレソ聯兵ニ逮捕サレタル處日軍一伍  
小隊ガ現ハレタルニ今度ハ二伍小隊ノソ聯  
兵ガ現ハレ散々日本兵ヲ追ヒ廻シ夕場面ヲ  
構想シタルモノ

### 六一般國情

#### ①教育狀況

八年制小學校三校有リ幼稚園アルモ其ノ數不  
明ニテ高小學校一工業學校一アリ

#### ②兵役關係

皇兵制ニシテ滿十八年ヨリ滿四十年迄ヲ國民  
軍トシ居レル模様ナルガ訓練ノ為メ約三週間  
入隊訓練ヲ受ケ歸郷スルモノ多ク会社ヨリ毎  
年此訓練ニ應ズル者三十名内外アリ

#### ③医療設備

オハ地方ニハ会社施設ノ診療所ニヶ所アリ外  
ニソ聯側施設ノモノニヶ所アルモ医療進歩セ  
ズ加フルニ医療器具等完備シ居ラザル為到底  
日本ノ病院ニ及バズ

#### ④社会施設

養老院ト認ムルモノハ發見セラレズ只孤兒院  
ハ一ヶ所アリ

⑤スターリン政權ニ對スルソ聯官民ノ感情

スターリンニ對シテハ青壯年及少年層ハ神様ノ如クニ崇拜シ從ツテ其ノ政權ニ對スル批判ヲ為スガ如キ精神的ノ余裕無ク老年層ハ寧ロ帝政時代ヲ追慕スル者多キ模様ニテ概シテ無関心ナリ

の經濟狀況

のソ聯人ノ生活狀況

現地ノ物資不足ハソ聯邦人モ相当困難ニ居ル狀況ニテ就中ソ聯國營鉱区ニ稼働スル同國人ハ約二百留程度ノ收入アルモ物価高ニテ生計困難總シテ被服等ハ邦人労働者ト比較ニナラヌ又粗悪ノモノナリ而シテ同地才ハ石油会社側物価ハ一方的ニ安価ニ指定サレ居ル為ソ聯労働者ハ同社へ入スルヲ喜ブノ狀況ナルモ蘇側ニ於テハ之ヲ阻止シ居ル模様ナリ

の物価

ソ	聯	側	会	社	側
豚肉	一担	二〇留	バター	一ヶ	六ヶ
砂糖	一ヶ	六乃至七留	砂糖	一担	三十三ヶ
卵	一ヶ	一乃至二留	マツナ	一箱	八ヶ
麥粉	一担	四、五留	麥粉	一担	二四
全下等	一ヶ	二、五留			
バター	一ヶ	一〇留	バター	一担	二四八ヶ
人造バター	一ヶ	六乃至七留			

の賃銀

ソ聯人労働者ハ一ヶ月一四〇乃至四〇〇留

鉦山署長ハ三千留程度ナリトイフ

(2) 銀行

オハ市中央部ニ一ヶ所國立銀行有レ且日本ノ銀行ノ如キ機銀ヲ有セズ只多少ノ現金ヲ預ル程度ノモノナリ

七、其ノ他参考

(1) ソルクト湖ノ地勢狀況

湖水ハ冬期間ハ凍結シ船舶ノ航行不能ニシテ此ノ間國營定期飛行場基地トシテ使用サレツ、アリ湖内ハ水深カラズ幸フシテ三十吨程度ノ船舶ガ航行シ得ル程度ノモノナリト謂フ湖水ノ咽喉部トナリオホツク海ニ面スル東部

海岸線一帯ハ砂地々帯ニシテ其ノ中湖水入口ニ近キ所約千米位ハ海上ヨリ内火艇ヲ以テ全速力ニテ進行セバ直ニ上陸シ得ルニ好都合ノ地矣ナリト謂ヒ同湖水並沿岸一帯ハ軍事上重要地矣ト認メラル

(2) 其ノ他ノ地勢

北樺太ハ一帯ニ丘陵テ北部ニ細長ク東海岸ハ海岸線ノ出入乏シク其ノ上湖多ク從ツテ冬季間ニ於テハ沿岸ヨリ一面海ハ凍結スル狀態ニシテ良港ナシ

(3) 氣候

オハ地方ハ樺太ニ於ケル最北ニ面スル關係上

海岸ヲ流ルル寒流ノ影響ヲ受ケ气温ハ南部ニ  
比シ低ク冬季ハ其ノ期間長ク寒気強シ其ノ他  
一振气温低ク爲ニ農業ハ發達セズ農産物トシ  
テハ燕麦、馬鈴薯、玉苩等ニシテオハ地方ニ  
相当廣大ナル農場アルモ生産比較的歎シ  
オハ地方ノ降雪ハ十月根雪ハ十一月ニシテ積  
雪ハ約一米位ナルガ風強ク凹地ニ吹溜トナル  
四月中旬頃ヨリ融雪スル霧ハ七、八月頃最モ  
濃ク六月、九月ハ稀薄ナリ海水ハ十二月中旬  
結氷期ニ入り四月中旬頃ヨリ解氷シ同時季ヨ  
リ流水アリ

交通

交通ハ未ダ發達セズ殊ニ北部ハ不便ナルモ只  
オハヨリ西岸、マスカリオ、ニ通ズル鉄道ノ  
便アルニ過ギズ  
地質ハ一振ニ泥土多ク殊ニツンドラ地帯ニシ  
テ完備セル道路少クオハ附近ニ於テモ平素  
自動車ハ勿論自転車等モ使用不適ノ状態ナル  
ガ殊ニ降雨時ニハ之等ノ交通不能ナリ冬季間  
ハ馬長又ハ犬、馴鹿ノ棧ニテ交通ス  
但シ前記合田ノ談ニ依レバ東海岸、カタニク  
リ、ヨリ西海岸、アレクザンドロフスクレニ  
至ル軍用道路ノ開設アリ此ノ附近ハ中頁三間





而シテオハニ於ケル自動車ハ乗用トシテニ台  
トラック三名位アル如ク鉄道ハオハ海岸ヨリ  
マスカリオ同廣軌道鉄道アリ毎年四月ヨリ十  
一月ノ間ソ側ハ之ヲ利用シ石油其ノ他ノ物質  
輸送ヲ為ス

ハ港灣ノ状況

オハ港ハ未ダ完備セズソ側ニ於テハ油田ノ施  
設トシテ本年度海底鉄管八吋ノモノ一本設置  
セルガ尙今後共増設スル模様ナリ

之迄ソ側ニ於テハ港灣ノ使用歎カリシモ今後  
整備サルノ傾向見受ケラル現在オハ港出入船  
舶ハ殆んど日本船ノトナリ

ハ興國汽船株式会社所有怡山丸遭難並現地ソ聯  
官憲ノ取締状況

昨年十一月二十六日オハ海岸ニ於テ遭難セル  
北樺太石油会社備船怡山丸ニ関スル標記諸狀  
迄ニ付同船長竹森正三郎及無電局長平山福一  
等ノ居セル處ニ依レバ

ハ遭難船ノ本船ノ行動

昭和十四年十月十六日小樽出港

本月二十二日朝オハ入港

時化ノ爲検査施行セズ

十月二十三日検査ノタメ

毎岸ノ守備隊長ハ上級大尉トハフ以下ゲバシ

午後取検査及艀内検査ヲ施行ス

方法ハ大体日本ノ諸港ニ於ケルト同様ニシテ

無電ヲ封鎖ノ上艀員ヲ全部上甲板ニ集合サセ

人員ノ兵呼並検査ヲナシ後各船室ヲ隈ナク調

査シ約ニ時向ヲ要セリ当日ハ荷役セズ

二十四日、当時本邦艀おは丸、藏王山丸入港

シ居リ本艀ノ荷役ハ後廻シトナルヲ以テ、カ

タンカリ、ニ在ル物資及乗客ヲ輸送スル様命

令ヲ受ケ

二十五日夜カタンカリへ向ケ出港セリ

二十六日朝カタンカリニ到着ケンテツキス一

〇。屯及乗客一。ニ人(内ロシヤ人百六十六人、  
其他乗客八名、本艀七人)ヲ便乗セリ(六)

二十八日カタンカリ出港

二十九日朝オハ入港シ夕ルモ時化ノタメ避難

三十日朝オハ入港荷役開始時化ノ為荷役進捗

セズ

十一月十八日迄ニハ揚荷中薪約一一。噸ヲ

残シ其ノ他ニ持帰リ雜貨九。噸ヲ積載セリ

二十日頃時化ノ為更ニ避難シ終日沖合ニテ避

難ニ十二日前ニ引続キ沖ニ避難シ居リ

二十六日遭難ノ日

以上ノ状態ニテ始終避難ヲ続ケ居タルモ無電

ヲ封鎖セラレ居ル一方本艀ノラヂオ破損ノ為

E-1745

全夕陸上等ト連絡ソカザル状態ナリシ處  
意外ニ風強ク夕メニ錨ハ切断セラレ遂ニ遭  
難スルニ至レリ

おは丸ハラチオニ依リ颯風ノ襲来ヲ知リ事  
前ニ處置シ午前三時頃沖合ニ避難セルカ  
当時おは丸ハ汽笛ニテ本船ニ對シ避難方  
信號シタル趣ナルモ漲吹雪ノ為連絡ソ  
カズ午前六時五十分頃エハビ海岸約十米  
ノ地上ニ吹キ付ケラレ坐礁シタリ

其ノ際無電ノ封鎖セラレタル封印ヲ破リ  
遭難ノ旨發信シタルモ短時間ニシテ船橋ヨ  
リノ浸水ノダメアソテナ引込口及電池凍  
結シテ發信不能トナシリ

馬遭難現場見取図別添第ニ及第三號ノ通シ  
最初本船遭難事實ヲ發見セルモノハソ聯ノ  
海岸守備隊ニテ同守備隊ヨリ会社ニ通知  
アリ當時会社ヨリ三、四十名位救助隊ニ未  
ルモ時化ノ為如何トモ為シ得ズ引返セリ  
二十七曰

無電機械ノ手入ニ全カヲ注ギ夜ニ入り稍々  
使用可能トナリタルヲ以ッテ遭難ノ旨打電マ  
リ遭難ノ際發信セルモ短時間ノダメ其目的

ヲ果サズリシモ之ニ依リソ俱ニ方ニシニ  
ヲ聽取セルモノ、如ク守備隊長ニシテ佐  
官級ト認メラル、モノヨリ部下ニ名ヲ  
伴ヒ末船怡山丸事務長ノ通訳ニテ上陸  
シタクナイカト問ヒタルヲ以テ  
上陸シタクキ旨答ヘタルニ  
本船ハ此ノ際ニナシ置キ差支ナキカト  
ノ質問アリ  
之ニ對シ何等心配ナシ  
ト回答シタルノミニテ守備隊員等ハ約三  
十分ニシテ退船シタリ

二十八日

ソ聯側ト会社側ト交渉ノ結果上陸許可  
セラルタルガ領事、会社港務課長、会社  
通訳ソ側ハ海岸守備隊長及税関吏一行  
末船シ全員上陸方一應許可サレ  
翌二十九日上陸スレコト、ナシ同日午前守  
備隊員末船シ約ニ時向ニ直リ船内外ヲ  
調査無電室ヲ封鎖スルモ其ノ際特ニ訊問又  
ハ檢索ヲ行ハズ要電封鎖ニ際シ官憲ハ何  
等訊問等ヲモ電信扣押收メズ

二十九日午前十時頃領事ヲ除ク昨日ノ一行

末船之上陸ヲ開始セルガ手荷物トミテノ  
陸揚ニツイテハ船用品又ハ個人ノ荷物ニ至  
ルマテ何等制限セズ一般ノ積荷ハ揚荷セシ  
メズ全員上陸後海岸守備隊長及税関吏  
指揮ニ依リ船長機関長一等運転士三會  
ノ下ニ各室全部封印セリ

宿舎ハ最初 エハビ海岸ニアル保税倉庫ヲ充  
テ七十名全部ヲ同棟ニ收容セルガ毎日ソ聯兵  
ニ名宛交代ニテ見張シタリ宿舎位置別添  
見取図第一及第四拜ノ通り

十一月三十日

午後船長機関長一等運転士ト同行海岸  
宿舎ヲ出テ午後四時頃領事館ニ至リ宿泊ス

十二月一日

日本オハ領事館ニ對スル海難報告其ノ他ノ  
手續ヲ了シ釧山監督官ニ挨拶セリ

海岸守備隊長並税関等ハ此ノ監督官ノ指揮  
ニ依リ行動シ居ルカ如キ觀ヲ呈シ右監督  
官ニ申吉セバ事足ルノ狀況ナリ

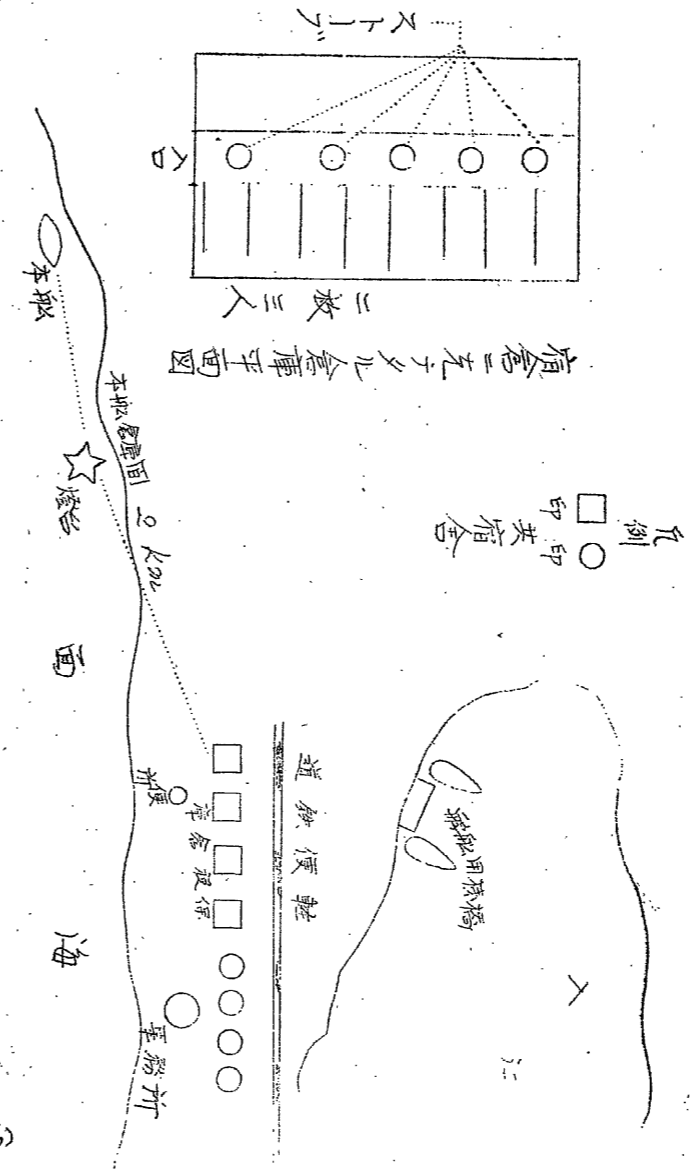
午後四時頃馬糞ニテ海岸ノ宿舎へ歸シリ  
一月七日右海岸ノ宿舎ヲ引揚クルコトナリ  
同日午後四時頃ヨリ糞セ、八台及トラックニ

今東輸送用也。午後九時頃終了セリ  
而シテ、オハ日本領事館ニハ本船ノ士官以下  
二十名、石油会社附属舎ニ東船者中三十  
名收容他ノ船内仲仕等ハ同社一夏季労働者  
宿舎ニ移転セリ。宿舎見取図別添ノ通り  
望遠鏡附近ノ状況  
潮流ハ北ヨリ南へ平素一、ニ湮ナルカ時化、時ハ  
五、六湮アル模様ナリ  
海底ノ模様  
坐礁ノ處ヨリ北ノ方ハ遠浅ニシテ真横ヨリ南  
ノ方ハ深ク岩盤ハ無ク砂ト小石ナリ  
陸ハ粘土質ヲ主トシツンドラ地帯ナリ海  
岸必々ニ岩石アルモ大体岸ニ小艇ヲ漕ギツ  
クルコトハ容易ナリト認メラル  
ソ聯官憲ノ態度  
当時ハノモンハン事<sup>4</sup>解決ノ頃トテ大分官憲  
ノ取締ハ緩和マレ居ル模様ナリシモ救助ニ  
際シテ物質的ニハ何等援助ヲナサズ  
諸給共食料等全部会社側ニテ為シタリ  
取調及情報蒐集等ニ関シテハ何等留意シ居  
ラザリシ模様ニテ前述ノ如ク殆ンド取調等ヲ  
受ケズ、他、船員及乗客モ同様ナリ

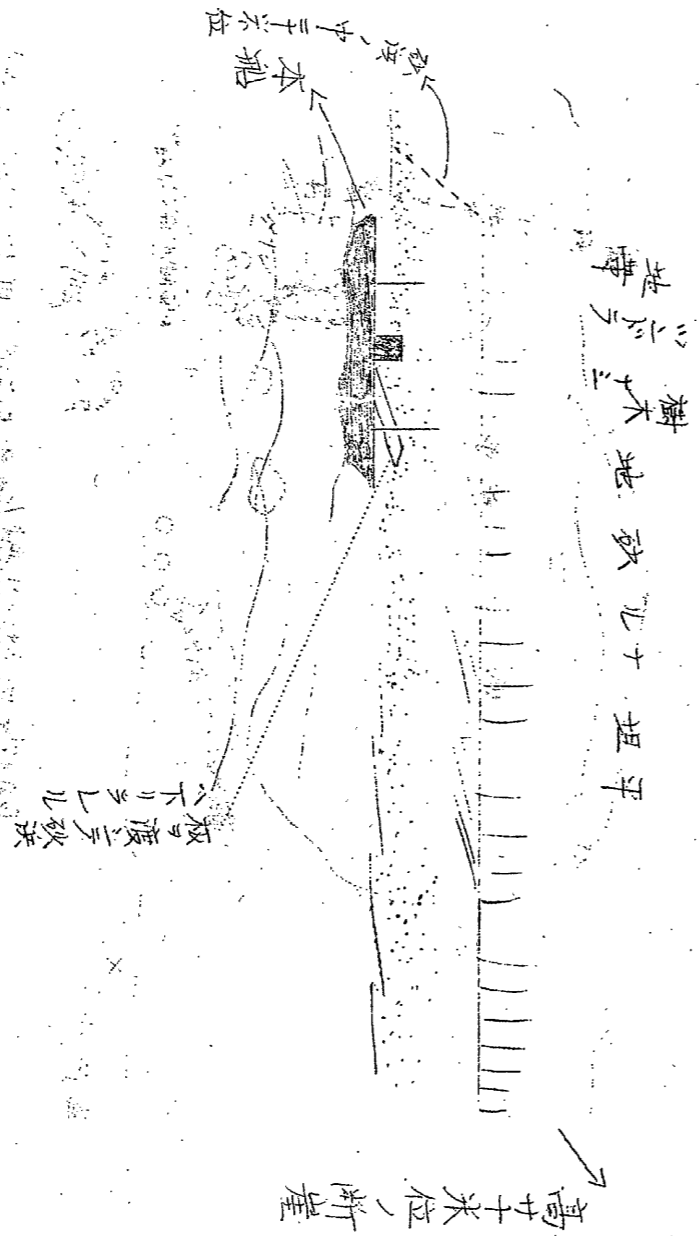
外部会社側トノ交通ハ禁止サレタルガ只食料  
燃料等ノ搬入ヲ許サレタリ会話面会等ハ禁止  
サレ居タルモ食料搬入等ノ際秘密連絡ハ比  
較的容易ニ為シ得タリ

又船長ノミハ時々港務課長ト打合連絡ス  
ルコトヲ許サレソノ際ハ何等ノ検査モ受ケズ  
一艇ニ一定区域ノ散歩ハ許容セラレ居タルガ  
海岸守備兵ガ剣休テ常ニ人ヅ、見張り  
ニ居レリ

別添第一號 怡山丸京船者宿舎見取図



別添第二號 怡山丸遭難現場見取図



E-1745









新報紙 十八部

の名称 サハリンスキーネズナヤトニク 北緯六十度發行日刊紙

一九三九年九月五日發行 一部

一九四〇年三月一日、八日、十五日、二十二日、二十九日、三月六日、十三日、二十日、二十七日、四月三日、十日、十七日、二十四日、三十一日、五月七日、十四日、二十一日、二十八日、六月四日、十一日、十八日、二十五日、七月二日、九日、十六日、二十三日、三十日、八月六日、十三日、二十日、二十七日、九月三日、十日、十七日、二十四日、三十日、十月七日、十四日、二十一日、二十八日、十一月四日、十一日、十八日、二十五日、十二月二日、九日、十六日、二十三日、三十日、

一九三九年六月一日、八日、十五日、二十二日、二十九日、七月六日、十三日、二十日、二十七日、八月三日、十日、十七日、二十四日、三十一日、九月七日、十四日、二十一日、二十八日、九月十四日、二十一日、二十八日、十月一日、八日、十五日、二十二日、二十九日、十月八日、十五日、二十二日、二十九日、十月十五日、二十二日、二十九日、十月二十二日、二十九日、十月二十九日、十一月六日、十三日、二十日、二十七日、十一月十三日、二十日、二十七日、十一月二十日、二十七日、十一月二十七日、十二月四日、十一日、十八日、二十五日、十二月十一日、十八日、二十五日、十二月十八日、二十五日、十二月二十五日、

の名称 インドストーリー 莫斯科發行日刊紙

一九三八年十一月一日 一部

(5)

E-1745



一。最近者、揚子江に新開編ノ譯文

六月十七日付

党研究部ノ新設

黒竜江リコムソモリスク十五日發行

最近道コムソモリスクニ三ツノ党研究部所ガアソク

即チ熱河工場、造船工場、共産党市委員会附屬ノモノト

アル。最近共産党中央委員会ガ「ムルスタリストロイノ共

産主義者等」ノ請願ヲ答シテ同附屬ノ党研究部ヲ附

設スル一ヲ許可シタ

新党研究部ニ於テ第一回會議ト云カ行ハシタルハ的ニ全ソ

聯共産党中央ニ報告シテ居ルモノヨキ名出席シタ

六月十七日付

蘇ノ銀行閉歇ス

アナドイリ十五日發

昨十四日セフモルブーチノ水上機隊地ノ小艇六隻ガ海面

ニ即チ本日ヨリ各ハ江向ノ定期交通ヲ小艇ニ依ツテ開始

サレタ

アナドイリ河ノ上流ニ向ツテ最初ノ談商ガマルコフスキ

地区ニ向ケラレタル食糧品ヲ持ツテ赴イタ

小艇ノ修繕ヲ完成シタ。アナドイリ水上基地ハ目下其

港ニ汽船入港スルニ準備ナル準備作業ヲ行ツテ居ル。

大倉庫ガ建設セラレ、鼠袋ガ準備セラレテ居ル。ラレ

リキ、コルホスハ汽船ノ着役ニ関シテ契約ヲ結ンダ。

斯ノ如キ作業ハプロタイチヤ入江ノ港ニ於テモ行ハレテ居ル

(北方タツス通信)

六月十一日付

共産党市委員会

共産党住宅配分課ノ第一次的党機関ハ共産党員候補者トシテ、名譽勲章ヲ授英セラレタル第十区住宅部主任スマトヒンヲ採用シ中大發電所ノ党機関ハ同党員候補者トシテ、履秀労働ヲ授英セラレタル大工ハロウインヲ採用シ又エハヒ石田純忠機関ハ同党員候補者トシテ労働赤旗勲章ヲ授英セラレタル振聲播建築組長デアラシラカノヲ採用シタ

五月五日党市委員会ノ指導部ハコレ等第一次的党機関ノ決議ヲ確認シタ

共産党市委員会指導部又、サハリンネフチ本部ノ第

一次的党機関ノ宣伝状況ニ関スル問題ヲモ審議シタ  
住民ノ間ニ講話ヲ継続的ニ行ツテ居ルソホレフ、カン  
トワール、レゾフ、レオノフ等ノ宣伝員モアレバ一方  
未ダコノ仕事ニ着手シテナイホンカレンコ、アーロフ  
ニアルツマン等ノ宣伝員モアル  
彼等ノ地区ハコレ並宣伝員ナキ候トナツテ居リ住民ノ  
間ニ誰モ講話ヲ行ツテ居ナイノデアアル宣伝員ノ集合ニ際  
シテ互ノ体験ノ交換モ行ハレテ居ナイ  
共産党市委員会指導部ハサハリンネフチ本部ノ党  
指導部ニ似々ノ党員及党員候補者、今後ノ党規案並  
答敵セザルコトニ關シ指示スル處アリ而シテ六月十五日迄  
ニ優秀ナ宣伝員一。名以上ヲ元ノ選挙区ニ宣伝確保シ

配置スル様本部完指導部ニ義務ヲ負ハシタ、同じク  
同部ニ對シテ本部ノ勞働者勤務者ノ間ニ國際情勢又  
ハ最近ノ政治ニ関スル演説ヲ行フコト、宣伝員ノ行フべき  
講話及其ノ内容ニ関シテ系統約ニ彼等ト協議スルコト  
集團宣伝員ノ指導者テイトフヨリ宣伝ニ関シテ聽取ス  
ルコト、住民ノ間ニ未カ宣伝ヲ行ツテライ人々ニ對シテハ憲  
ノ制裁ヲ加ヘル方法ヲ模ルコト等ヲ提示シメノデアアル  
近クロシヤ共和國第三回最高會議ノ議事録ニヨリ及中  
ノ道路整備ニ関シ講話ヲキクベク提案サレタ

六月十一日付

徴兵ト我等ノ任務

今秋勞農赤軍及海軍ヘノ定期徴兵が行ハレルカコレ

(三)

ニ對スル準備教育ハ未カ馨バシクナイ、  
市教育課ノ發案ニヨリ無學ノ徴兵適齡者ノ為ニ設立  
セラレタル學校ハ二十ニ入レナケレバナラヌノデアアルカ  
其ノ成績ハ極メテ悪ク徴兵適齡者ノ大部分ハ缺席勝  
チデアリ又全然學校ニ来ルコトヲ忘シテ居ルモノモ多ク  
アル

トラストノ附屬農場ニ居ル四人ノ無學適齡者ハ一人  
モ出席シテ居ナイガ当地委員會長シエーニン別働隊  
長トイナンスキイハコノコトヲ少シモ考慮シテ居ナイテ  
アル、又コレハ運送事務所、國營商業勞働組合、三月  
八日職業協同組合、製材事務所、送電ト等ノ代表者達  
トモ関連シテ居ルノデアアルカ、コレ等ニ所屬シテ居ル徴兵

E-1745

通齡者ハ普通教育ノ課業ニモ亦國防ノ課業ニモ出席シ  
テ居ナイ、而シテコレ等ノ代表者達ハ適齡者が自宅テ何ヲ  
シテ居ルヤ、勞農赤軍ニ入ルベク如何ニ準備シテ居ルヤ  
否等ヲ知ラナイノミナラズ適令者等ガスタハノフ人トシ  
テ又社会又トシテ申分ナキカ又彼等ハ如何ニ自己ノナス  
ベキ社会的義務ヲ行ツテ居ルヤ等ヲモ御存ジナイハテアル  
我等ノ徵兵適令者中ニハ継続的ニ医療ヲ必要トスルモノカ  
アル、彼等ニ對シテハ認證ノ方法ヲ以テ医療機關ニ於  
テ治療セシメナシレバナラヌ又適令者ハ強カテアリ肉體  
的ニモ頑健デアリ健康ナルコトガ必要テアル

オハ地区ノ無學徵兵適令者中ニハ成績優秀ナモノカアル  
例ヘバ、ホドジヤロフ、アOMET、アワセ等ノ如キ人物テ

(三)

アルカ彼等ハ誠實ニ且毎日遲刻モ通行許可モナク通學  
シテ普通學及國防ニ関シ勉強シテ居ル又自己ノ為スベ  
キ社会的義務ヲ完全ニ遂行シテ居ルノテアル  
市教育課、シテ聯國防飛行協会地区會議、ロシヤ赤十字  
社委員会ノ方針ニ依リ現在徵兵適令者ニ関スル或ル仕  
事が行ハレテ居ルカコトニ三月中旬ニ行ハルベキソノ仕事  
ハ實際開始サレタリテアル  
國民教育部ハ徵兵適令者用ノ教科書ヲ完全ニ供給セ  
ズ又國防飛行協会地区會議ハシオロシロフ財手ノ準備  
教育ノ為教官ヲ配置シナカッタ  
赤軍ヘ入ル徵兵適令者ノ準備教育ト云フ大ナル仕事  
ハ勞働組合及俱樂部が実行セネバナラヌ、經濟機關



及労働組合ハ青年共産同盟機關國防飛行技会機  
関及俱樂部ト密接ト連繫ヲ保ツテノミテ労働赤軍  
ニ入ルベキ徴兵適齡者ノ準備教育ト云フ重要ナル問題  
ヲ首尾好ク遂行スルコトカ出来ルノデアアル

労働組合及俱樂部ハ適令者ノ学ヲ学校ニ書籍ヲ  
共ニテ援助シ課業ノ间断ナキ進行ヲ保證シ彼等ノ必  
要トスル材料ヲ供給シ適令者間ニ社会主義的競争  
ヲ促進セシメ教習課程ニ於テ先駆者ヲ獎勵シ而  
残余ノモノヲ援助シナケレバナラヌ

運動界及俱樂部ハ適令者間ニ体育及國防ノ發達  
ノ為夏季間ヲ利用スルコトニ関シ考慮シ体育及國防  
徽章ヲ授共スル為ノ標準ヲ定メ且コレニ準備スル

(三)

コトヲ為スベキデアアル

労働組合及俱樂部ハ徴兵適齡者ヲシテ國際情勢  
我國ノ國防問題 赤軍史ノ主要段階ト其斗争労働  
農赤軍創設ノ際ニ於ケル我党ノ指導的役割コノ際ノ  
レーニン及スターリンノ役割ニ関シテ知ラシメナケレバ  
ナラヌ

然ルニ我等ノ俱樂部ノ適令者教養ハ充分トハ云ヘヌ  
「ネフキヤニク」俱樂部主任カリーシエフハ例ヘバ適  
令者ハ幾人俱樂部ノクループニ参加シテ居ルカ知ラナイ  
ノデアアル当地ニ於テハ適令者教養ニ関シ何等ノ言フヘキ  
コトカナナイ

其ノ他文化的施設モ同様何等適令者教養ニ関シ

テ行ツテ居ナイコレハ労働組合及青年共産同盟ノ  
仕事ノマイナストナツテ居ル

労働組合青年共産同盟国防飛行協会等ノ各機関  
ハ赤軍ニ教養アル健全ナル且ツ政治的ニ鍛練サレタル  
キエヲ送ルコトヲ考慮シテ徴兵適齡者教育ヲ速カニ  
拡大シナケレバナラヌ、  
六月十一日付

エハビ石油工場未ダ不完備

本年二月エハビ石油鉍ニ石油精製工場が建設セラ  
レ操業ヲ開始シタガ最初ニヶ月間ニ工場ハ無監督  
ノ然テアリ、工場ハ幾何ノ揮發油ヲ精製シコレヲ何処  
ヘ移出シ精製ノ為幾何ノ原油ヲ要シタカ誰レモ知ル

モノハナカツタ四月一日私ハ自ラ立ツテ揮發油ノ  
精算及作業ノ研究ニ着手シタ

石油精製工場ニ非常ニ悪イ冷却器が装置サレテアル  
コトが現在ニ至ツテ明瞭トナツタ四月五月ノ決算ニ依レ  
ハ揮發油が五七吨ハ精製サレタガ損害が五四、五%  
即チ三七、九九ニ留九五哥トナツテ居ル

精製工場ハエハビ石油鉍ノ為有益テアル自動車  
トシクター、モーターノ揮發油及石油鉍ニ必要ナル  
黒色鉍油が精製セラレテ居ルコノ黒色鉍油ハ機械  
ノ塗抹用トシテ極メテ有用ノモノテアル然ルニ採掘事  
務所ハオハノ油ヲ塗抹用トシテ運搬シテ居ル併シ工  
場ニ於テハ自分ノ方ニ於テ産出スル油ヲ機械全部ニ

塗抹して居ルコノ目的、為ニコノ油ハ二倍以上支出  
サレテアルカ機械用トシテハ微細ノ分ニカ多数含  
有シテアルヲ以テ有害アル  
工場が良好ニ作業スル為ニハ速カニ冷却機ヲ交換シ  
揮發油用ノ大容器ヲ設備スルコトが所要ナル  
トラスト本部ハエハ石油鉍至當者ニオハカラ黒色鉍  
油ヲ運搬スルコトヲ禁止スル必要カアル彼等ハ自分ノ  
方ニ産スル黒色鉍油ヲ利用シナケレバナラヌ、斯クスレバ  
輸送費、量ニ於テ有益ナル筈アル

エフ、シラウリヨウ、

六月二日付

ムカチ鑛山ノ御祭

アレクサンドロフスシ 五月三十一日發

(註)

五月三十日サハリンウゴリトラストノムカチ鉍山ニ於  
テ一九三九年度ノ採炭計画ノ優秀ナル実績ノ為鉍  
山ノ優秀ナル人々ニ對スルソ聯邦勲章及メタルノ  
行賞並ニソ聯邦石炭工業人民委員部及極東石炭業  
者聯盟中央委員會ノ赤旗授賞ヲ祝賀スル大儀ニ於  
テ行ハレタ、レニ勲章ヲ授與サレタ、クシエーレー、大倉  
ノ壇上ニ於テ左ノ如ク語ンタ、  
ムカチ鉍山ハ一九三九年度ニ於テ、ツァーリ政府が二十  
年間ニ樺太ノ全鉍山ニ於テ採掘シタメ、石炭ヲ國家  
ニ提供シタノデアアルコレハ我國ノ幸福ノ為全カヲ傾注  
シタソヴェイト人ノ勝利ニアラスシテ何テアラウ

スマハノフ的坑夫等ハ恩賞ニ對シテ嘗、政府、御大ス  
タリリンニ感謝ヲ捧ゲタ 坑山ノ大衆ハコノ恩賞ニ返ス  
ニ本年度計圖ヲスターリン憲法ノ記念日タル十二月五  
日迄ニ遂行スルコト九月一日迄ニ採炭ヲ終ルコト採炭  
機ガ一ヶ月一機一万吨宛採炭能力ヲ發揮セシムルコト  
等ヲ以テスルコトヲ誓ンタノデアル  
ムカチ 鉱ノスタハノフ人ハ オクチヤブリスキイ、アグ、ネ  
フスキイ、アルコフスキイ等各坑山ト競争スベク招待  
ヲ發シタ、大会ニ参加シタ大衆ハ大ナル感激ヲ以ツテ  
スターリン、モロトフ、カリニンニ對スル謝辞ニ同意  
シタノデアル

カムチヤツカノ春ノ播種

一ツスチ、ホリシエレツク、五月ニ十七日發

カムチヤツカ西部沿岸ニ於テ春ノ播種カ始マリ、クラステヤ  
ザリヤ、コルホズ、ハ、既ニニ十五ヘクタールノ土地ヲ耕シニ  
十日大根、蕪菁、馬鈴薯等ノ栽培ヲ始メタ、コノ地区  
ノ他ノコルホズモ春ノ播種ニ入り、ルバコフ、メーデー、其  
ノ他ノコルホズニ於テモ春ノ野菜ノ栽培カ始マツタ、  
アコレソフホズニ於テハトラクタールガ畑ニ出勤シタルガ  
本年度ソフホズハ馬鈴薯ニニ五ヘクタールキヤバツ  
ヲ五ヘクタール其ノ他ノ野菜ヲ栽培スル豫定デアル  
六月ニ日付、オハ、ノニユース  
一、本年一、二、三月分ノ懐妊及出生手当セ、五七留

(英)

油田労働婦ニ交附シ出生児ニ必要ナ物品購入及  
養育ノ為ニ五ニ六留交付セラレタ

一、五月十六日多数ノ子持母シヤローワハ八ノ子供ニ對シ  
一万留ノ手当ヲ受ケタガ本年一月ヨリ五月迄ニ多  
数家族持ニ三万四千留支給セラレタ、  
一、勤員解除ノ赤軍兵士ニ手当八千五百留支給セラレタ  
六月二日付

オハハニユース

石油工業學校上級生徒二十六名ハ目下卒業前ノ実  
務実習ノ為ニバクーニ滞在シテ居ル、石油業者聯盟  
地区委員会ハ彼等ノ為ニコーカサス油田中央委員会ノ  
休息ノ家ノ入場券ヲ購入シタ、実習終了後休息ノ家  
ニ行キ九月一日ニハオハニ帰ル豫定アル、  
(註)

六月一日付

言行一致セズ

モスカリヲ村ノ全ニ聯邦レシニ共產青年団委員会員ハ共產青  
年聯盟ノ集会席上ノ演説ニ於テ屢々党文ノ研究ヲ必要ト  
スルトカ、無産制ノ宣伝ヲ鋭制スル時代アルナド、云フテ居ル  
共產青年聯盟機關ノ指導者等ハ斯ノ如キ演説シ後ニ於テ  
實際ニマルタスニ主義、レトニシテ主義之真髓ヲ擧、クシテ演説  
普通共產青年聯盟員等ニ模範ヲ示スベシト思ハレルカモ  
知レヌカコレハ全く不明アルノ全ニ聯邦レシニ共產青年団委  
員会員シートニテハ、数ヶ月間ニ教科書ノ第三章研究シテ  
ニ過ギナイ

共産青年同盟員リユセンコフ、ペルアコフハ数ヶ月間カツテ  
教科書ノ最初ノ五ヶ章ヲ未ダ研究シテ居ル又シエフチニコ  
ハ党史ナド研究スル肉販ナシト云ツテ居ル

宣伝方面ノ活動モ低イ水準ニ在ル、コムソモルクリウエンコバ  
十日間ノ宣伝員講習ヲ終ツタガ、自身一度モ講話ヲ聞イテ  
居ナイノデアル、宣伝遊説ノ指導ニ関シテモ一言スルナラハ  
コムソモル市委員会員等或ハ又宣伝遊説部主任シエルスト  
ヒトノ自身モスカリヲニ末訪スルコトハ極メテ稀デア  
ル彼等ハコムソモル機関ノ仕事ニ殆ンド何等ノ援助モ与ヘテ  
居ナイノデアル、モスカリヲ村ノコムソモル員ニハ言葉業ヨリモ  
実行ノ時代デア  
ル

ブリューヒン

六月一日付

党規ヲ遵守セヨ、

サハリン、ネフケトハ北樺太石油本部ノ党機関(党指  
導部書記マトラエエフ)ニハ共産党員及同候補者約  
五十名アリテ其ノ大多数ハ当地ニテ高等ノ教育ヲ受ケタルモ  
ノデアル彼等ニ概リテ党員及非党員ニ伊要ナル当面ノ諸問題  
が處理サレルモノト思ハレルカモ知レヌガ遺憾ナカ  
ラズデアアル、ソレハ未ダ当地ニ於テハ現在嚴格ナル鉄壁ノホ  
リシエウイキ的党規ニテ取締ラレテナイガ故デア  
ル例ヘバ  
第一次の党機関ノ多数ノ共産主義者ハ党ノ委託シタル  
コトヲ少シモ行ツテ居ナイ、技術補充部倉庫主任シ  
ゾフ、ニ對シテ党機関ハ十二区ノ或ル家ニ宣伝ノ為行クヤ  
ツ



指導部がスタハノフの技術計画編成に對スルアギテエテ技術ノ説明ヲ聽キタルガソノ計畫タルヤ極メテ社壇ナルモノデアツタコトが判明シタリ同時トラスト本部若指導部ノ指導者等至右ノ事件ニ不都合ナ關係ヲ持シ更ニ延々コトが暴露シタリトラスト技術部ニ在事全部ヲ党ノ監督ノ下ニ置ク様提議セラレタ

トラスト技術部ヲ指導ニ新タナレタ人々が未ラニヶ月餘経過シタカコノ間何カチサレタカ？スタハノフの技術計畫が未ダ編成サレテ居ナイトラストノ各企業例ハバ林業ノ如キ尙も悪イ更ニ合理化提議ノ實現ニ関シ何等ノ通報チハナイテアル國費ノ不法支出及不法浪費が一度ナラズ集會ノ席上ニ於テ指摘セラレ又新聞ニモ掲載セラレタトラストノ支配

人タルアレヤンハニ回モ左ノ告知ヲ發シタ

「労働指令ニ對シ反國家的學習ニ因ル故意ノ違犯ヲナスモノハ裁判ニ回送スル並峻嚴ナル責任ヲ問ハルベシ」然ルニ彼バ左様ナ何人ノ責任ヲモ問フテキナイ其ノ後ニ至リ、サハリシ、ネフチトラストノ企業及獨逸ノ指導者等ノ如キハ数万留ノ國費ヲ吹キ飛バスカ如何ノ潛害スルコトニ同意シタ程デアル

コレハ獨逸國ノ指導者等が實際ニコレ等ノ問題ニ從事シコレヲ正シク解決スル爲トラスト支頭人アレキニ協カヲ与ヘルコトが不本意デアル證據テハナイテアラウカ時ハホリシエウイキ的デアル、而シテ捲クテ鉄壁ノ完規指導ニ取カ、ルベキデアル、エル、リウ、オ、フ



五月三十日付

党員候補者及青年党員大会

五月二十八日石油技術学校に於て党員候補者及青年共産党員ノ會ハ會カ開催サレタ。講師ホリソフカ日本ニ關スル講演ヲ爲シタルガ彼ハ日本ニ對スル歴史的研究ヲ述ベ日本ノ經濟機構ノ特長ニツキ詳述シタルガ次ノ如シ。資本主義ノ不均齊ナル發達ノ最モ顯著ナル事例ハ帝國主義日本ニ於テ認メラル。コノ不均齊ナル發達ハ過去數十年間ニ於テ半植民地ノ封建的國ヨリ強大ナル帝國主義國ニ擴大或育サレタノデアアル。コレハ日本ノ經濟機構ノ特質ニ影響ヲ及ホシタ。即チ独占的金融資本ノ急速ナル發達ト相並ンテ封建的田畝耕作ニ農業方面ニ於テ

大ナル意義ヲ持ツテ居ル(日本ノ富ニ言及シ其ノ資源ノ貧弱ナルコトヲ述ベタ)日本ハ一九三六年(昭和十年)他各國ヨリ鉄ヲ七六%石油ヲ九三%鉛ヲ九三%等ヲ輸入シタ。日本ハ斯ノ如キ状態ヨリシテ方法ヲ求メツ、アリタル處一九三九年三月七十四議會ニ於テ產業三ヶ年計畫ハ通過シタ。コノ計畫ハ一九四二年迄ニ鋼鉄六。%銑鉄三。%合成ガソリン三。%増産セントスルモノデアアル。勿論コノ計畫ハ空想ニ過ギナイノデアアルガ日本ハコレ等産業部門ニ特別注意シテ居ルト云フ事實デアアル。注目ニ値スルノデアアル。長引イテ居ル對支戰ハ日本ノ輸出入ニ打撃ヲ與ヘテ居リ日本ノ勤勞階級ヲドン底ニ陥レテ居ル産業増進ニ婦女子ヲ酷使シテ居ルコトニヨリ日本ハ自己ノ富ヲ低廉ニ

輸出シテナル世界市場ニ於テ各國ト競争スル可能ヲ以テ  
居ル併シコレハ小中企業家ヲ破滅ニ導クモノデアアル  
既ニ對支戰三週年ヲ迎ヘ日本ノ經濟機構ハ全ク破壊サ  
レテ了ツタ。戦争ニ依リ夥シキ人的犧牲ト百七十億ノ費  
用ヲ消費シタノデアアル。日本軍部ノ役割ハ種々ノ宣傳ニ  
依リテ明確ニ暴カレタ。軍部及軍部ノイデオロギイカ曰  
本ノ外交政策ハ帝國主義的侵略政策軍備政策等ヲ決  
定シテ居ル間謀牽制、突發事件ノ發生等が突如ノ  
尤ナルモノニシテ日本軍部ノ方法デアアル。(日ソ關係ニツキ  
次ノ通り詳述シタ)

日本帝國主義ハ凡有方法ヲ以テソ聯邦ヲ戦争ニ誘  
導シテ居ルガソ聯邦國民ハ常ニ動員ノ用意アリ日  
本軍部ニ大打撃ヲ以テ報ニル準備ガ完了シテ居ルノ  
デアアル

一五。名ノ党員、及党員候補者ハ非常ニ注意深クホリ  
ソフノ興味アル詳細ナル演説ヲ聴取シタ。最後ニホ  
リソフハ西部歐洲ノ最近ノ状況ヲ詳細ニ話シタ。

ケ、ユタレ、ツイチ、

五月二十二日附

對化學的防空機關ト民衆自衛團ノ組織

對化學的防空ノ全系統中ニ於ケル第一次的集團テ  
アル全國民ノ保護ハ地方防空ノ長ヲ勤ムル勤勞代議  
員ノ市、村、部落、ソウエト並ニ執行委員長等が指導  
シテ居ル、市及地区ソウエトハ輿論ニ立脚シテ國民ノ



保護及國民ノ防空豫備教育ニ構スルモノテアル  
コノ任務ヲ遂行スル為ニ各住家ニ連絡監視規律保持  
堂ノ偽装、化學、防火、衛生等ノ各班長及政治指導員  
ヲ含ム自衛団ガ組織セラレルノケアルカコレ等各班ハ  
指揮者ヲ加ヘテ四、五人トナラナケレバナラヌ

自衛団ハ國民ノ防空及對化學防空ノ重要ナルモノ  
コノ集団ハ空襲ノ際自己或ハ隣接ノ住宅ノ人々ヲ救助ス  
ルヲメ諸部門ヨリモ真先ニ駆ケ付ケルコトノ出來ル化學的  
防空機關ノ第一次的機關トナツテ居ル、危險ナル狀  
態ノ間自衛団ハ自衛ハ科學的防空機關ノ建物ニ詰メ  
テ當直スルノテアル、警報信號ニ依リテ自衛団ハ人民ニ  
空襲化學襲撃ヲ通報シ市内又ハ住宅内ノ人々ガ規則

ヲ守ツテ居ルカヲ監視シ光ノ偽装ヲ完璧ニシテ居ル  
斯クシテ燈火管制ヲ行ハバ敵ノ夜間空襲ニ際シテ地上ノ  
光ヲ利用セシメルコトガナク目標ノ發見及爆撃ヲ困難ナ  
ラシムルノテアル、

光ノ偽装ハ何物ニテモ光ヲ遮ギル手近ニアル材料ヲ以テ  
ナスノテアル、ソレハ丈夫ナ黒色ノ布、毛布、ベニヤ板等  
ヲ以テ作ツタカーテンテヨイノテアル、光ノ偽装ノ為ニハ白色  
ノ敷布等ハ適當デハナイ、

光ノ偽装ノ最善ノ方法ハ青色ノランプヲ用エルコトテアル  
青色ランプハ充分照明スルガ若シコレヲ特殊ノカバー  
ヲ以テ設置スレバ上方ヲ照明シナイ、住宅ノ外部ノ照明ニ  
モ青色ヲ適當ニ利用スベキテアル、

E-1745



空襲ノ際防火ニ努メル時ハ第一着手トシテ屋根裏部屋  
廊下、地下室、梯子段下部屋ヲ片付ケ又ハ燃ニ易イ  
物或ハ發火し易イモノヲ屋敷中カラ片付ケルコトニ全力  
ヲ注カコトデアル

屋根裏部屋ノ明窓ハ全部硝子ヲ張ラナケレバナラヌ、  
何トナレバコレニ反スル時ハ火災發生ノ際燃焼ヲ容易ナ  
ラシムル通風口ヲ造ツテ置ク様ナモノデアル

防火ノ手段トシテ充分使用スルモノヲ多数準備シ置  
クコト例ヘバ消火器、水用ノ樽桶、焼夷彈消火用ノ箱  
袋ニ入レタ乾砂ホース、消火器具ノ桶、シヤベル、斧等デ  
アル、遺憾ナガラオハノ各家作人全部が是等ノ消火器  
具類ヲ持ツテ居ナイ、先ツ第一コレ等ノコトニ就イテ

考慮ヲセバナラヌ、住宅委員会支部地区管理者火  
防監督等が注意スル必要ガアルノデアル

自衛団ハ空襲サレタ結果生ジタ種々ノ破壊物等ヲ  
整理シ空襲ニ依リ負傷シタルモノニ應急救護ヲ施スコト  
(医療衛生班)ノ人民ニ敵ガ化学薬品ヲ使用シタルコト  
ヲ報導スルト共ニコレが害毒ヲ受ケザル様治動シ人民  
ヲコレが害毒ヲ受ケル地区ヨリ急遽カシメル様備スル  
コト、又自衛団ハ外ヨリ特別ノ指図及援助ヲ受クルコトヲ  
待タズシテ進ンテ被害ヲ少クスルコトニ努ムルモノデア  
ル、我々ノコレ等防空ニ関スル準備ハ良好ナルモノトハ認  
メラレ難イ、國防化学飛行技士会地区ソウエートハ自衛  
団ノ専門家各班長が居ルノデアルガ人民ト共同シテ

殆んど何等ノ活動モシテ居ラナイ  
國防化學飛行技會地区ソウエートハ對化學的防空機關  
及民家自衛団ヲ組織スルト共ニ防空並ニ對化學防衛ニ  
関シ人民ト共同シテ技識スルコトヲ志シテハナラナイノデ  
アル

對化學的防空機關教官 サリノフ

五月二十二日付

悪道路ノ改修

オハ石油鉦ノ道路ガ悪イ為トトラックニ依ル輸送ハ半分ニ  
減少サレテ居ルトトラックハ悪路ノ為片輪ニテリ、隊列カ  
ラ崩レサケレバナラヌ  
第五二六、五二〇、五〇五、五三三、四八八、縣掘鑿井ヨリ

第三採油工場（主任マカロフ）ニ至ル道路ハ実ニ悪イ  
トトラックヲ通行出来ナイバカリテナク徒歩ニ依ル通行モ  
困難デアアル、道路ノ各所ニハ十二吋十四吋ノ地盤入鉄  
管ノ邪魔物ガアルノデアアル、掘鑿井ヨリ掘鑿寸違ノ起重  
機運搬ハ長い道路デアレバ三十分乃至五十分以内ノヨイガ  
現在コレハ八時間時ニ因リテハ一昼夜モカ、ルコトガアル  
コレニ関連シテ道路ヲ適當改修スル様前ノ工場取セリ  
及職工等ノシオルコフ、クルポーン、コクラ、シマコホフ等ニ  
一度テズ申言サレタノデアアルガ実現サレナク  
第三採油工場ノ採油従事者ハ數年的任務ヲ以テコノ悪道  
路改修ニ当ラネバナラヌ、斯クシテコン採油業務ガ順調  
ニ行ハルベク採油ノ國家計畫ガ遂行サレルノコトヲ望ム計

画以上ニ遂行サレ得ルノテアル

コマル又イ

五月二十一日付

シミット岬ノ春

シミット岬五月十九日發

シミット岬ニ極北ノ日が到来シ一昼夜中改セザル太陽が  
輝イテ居ル時々春ノ濃霧がカ、ツテ雨トナリ雪が急ニ  
融ケ始メテ居ル。雪が融ケテ露出シ夕僅カノ土地ニハ  
既ニ微小植物が花ヲ咲カセテ居リ彼方地平線ノ連山ハ白  
衣ヲ脱ギ棄テ次第ニ黒衣ニ更メテ居ル

初春ノ最初ノ使者テアル北極ノ雲雀類白が訪レ始メ現在  
鷲鳥が飛来シテ居ル海ノ彼方遙カ地平線ハ高小未ダ高

イ氷山ヲ以テ覆ハレテ居ルが併シ稀ニ白イ海鷗が飛来  
シテ海上ノ氷解モ遠カラザルヲ知ラシテ居ル

雪が急ニトケタコト而シテ冬季飛行場が破壊サレタコト  
ニヨリテ空中ヨリ航海前ノ氷状偵察ヲ急ニ行ハネバナラ

ナクナツタノデアル。五月十日ヨリ十四日迄ノ間ニ飛行セブ  
ガエフガ「CCCDHE」機ヲ操縦シテチヌコトスキ

海及東部シベリヤ海上ヲ數回飛翔シテ氷ノ状況ヲ調査  
シタ。同飛行機ハシミット岬ヲ發シテコルイム河口  
迄飛翔シタル後帰還空路ハ、メランケル島ヲ迂迴シ  
ベトラング海峡迄到達シテシミット岬ニ返ツタノデアルが  
總航程六千料ニ及ンテ居ル  
時々數百料ニ亘ル融氷海上ヲ飛ンタ乗組員ハ寒ニヨク活動シ

E-1745



運輸士マカゴン及水路學者ゴルデイエンコハ氷ノ状態偵  
察ノ範圍浮氷ノ方向等ヲ詳細ニ地図上ニ記載シ乗組ノ無電  
技手ハ大陸ノ無電局ト間断ナク連絡ヲトツタ

調査ニヨリ氷状ヲ詳細ニ記載シ夕地図ハ北洋航路本部ノ  
艦ヲ末ルベキ航海ニ極メテ有益ナルモノトナルデアラフ、  
北極飛行隊長ノソ聯邦ノ勇士マズルクハ氷状偵察ノ成  
就絲揚シ「CCCCPHER」機ノ全乗組員ニ對シ謝意ヲ表  
シタ

五月二十二日付

コルイムヘノ航路開始

マカタン 五月十九日發

コルイムヘノ夏季航路開始セラレ其第一船トシテ

(甲)

浦汐ヨリナガエオ港ニ「ダリストロイ」フエリス、ナガ  
チンスキー、両船が就航シタルガコルイムニ七百人以上  
ノ乗客ト技術的設備資材及食料品ヲ輸送シタ、其ノ外  
同船ニテ六十万留代ノ古本小倉ニ五〇。箱一冬中ノ中  
央及地方新聞ヲ輸送セラレタノデアラハ、  
同船ハ今後モナガエヲ浦汐間ノ定期航路船トシテ  
就航シ望テアル

五月二十二日付

コルイムヘノ航路開始

「ナガエ」ノ不十分ニ本部ノ第一次乗組員ノ宣伝隊ハ  
優秀ニシテ活動能力がアツタ、其ノ宣伝員ハ二十五名ヲ算  
シ大部分ノモノハ中等或ハ高等程度ノ教育ヲ受テタモノ

コルイムヘノ航路開始ニ對シ、其ノ外

テアル例へバ、グリネフ、ミシヤノフ、アルタモノフ、チシ  
トフ、シエリギン、ヤコフレフ、エヤストラトフ等ハ高等ノ教  
育ヲ受ケタモイテアル、斯ノ如キ集田ニアラザレバ活動ハ  
出来ナイモノト思ハレシカ、遺憾ナラソレハ容易ニコト  
テハナイテアル。

最近本部ノ宣伝隊ハ其ノ活動ヲ非常ニ弛メテシマツタ、若シ  
当地ノソツエート選挙準備ノ際五十戸宛受持シテ處ノ  
三十名以上ノ宣伝員が在民ノ間ニ遊説シタトシテモ現在ニ  
於テハ規則正シク遊説ヲ行ツテル宣伝員ノ數ハ十人ヲ越エ  
テ居ナイ宣伝員シゾフ、シオノフ、イワノフ、スエトコス等  
ノ活動ハ良好テアル彼等ハ当地ソツエート選挙ノ時ヨリ受持  
ノ對象ト關係ヲ絶ツテ居ナイ彼等ハ第一次党機関及當

地委員会ヨリ受ケタ党ノ委託ヲ精忠ニ行ツテ居ルノテアル  
宣伝員が遊説ヲ行フ家ノ人々ハ非常ニ喜んで彼等ヲ迎へ  
宣伝ノ準備等ヲ援助シ近隣ノ居住民ヲ会場ニ勧誘シテ  
居ル

北樺太ノソツエート北十五週年記念前夜ノ遊説実施ノ為メ  
配置セラレタル宣伝者アゲエフ、シチーリン、マコツレフ、  
イソノフ等最近活動ヲ開始シタルガコノ外宣伝隊ノ中ニハ  
当地区内ノ遊説実施ニ着手シテ居ナイ、宣伝員ニ多數  
アルノテアル宣伝活動ヲ指導スルコトモ談クベカラザル  
モノテアルガ従来宣伝員ノ為ニ國際狀勢ノ問題ニ関シテ  
講演モ講話モ多集ノ提議モ行ハレテ居ナイ全ソ聯邦  
共産党市委員会ノ宣伝部が若シ最近党研究所或ハ



図書館等ニ於テ見ルコトノ出来ル文書ニモ發行シテ遊説実  
行業ヲ樹テ夕ナラハ非常ニ好カッタコトデアラウト思フ、  
第一次党機関ハ宣伝員ノ活動状況ニ関スル宣伝隊指導者ノ  
報告ヲ聽クニ止メテハナク又ト私ハ思フ、党集會毎ニ宣伝  
員各伯ノ活動状況ヲ報告セシムルコトヲ系統的ニシテ其ノ  
体験ノ優劣ナルモノヲ新聞ニヨリ一紙ニ普及セシメ各宣伝  
員ヲ其各地毎ニ於テ檢閲シ且ツ援助スルコトが所要デアル  
コノ活動ノ適當ナ再建ノ曉ヲサハリ、ネフチロトラスト本邦ノ  
宣伝員ハ自己ノ任務ヲ充分盡クスデアラウコトハ疑フ余地  
ナイ處デアアル

宣伝隊指導者 エヌ、テイート

五月二十一日付

國防ノ向上ヲ期ス

オハ地区ニ於ケルソ聯邦國防飛行化学建設後援會(オ  
ンアウイアヒム)發行第十四回債券ノ發賣ハ好成績ニ  
終始シ債券ノ売却ハ十五日間テ終了シタ、コレニ對スル、  
オンアウイアヒム先驅機關ノナシタル準備工作が預ツテ效  
果がアツタノデアアル凡有先驅機關ニ依ツテ債券売却準備  
ノ集會が開始サレコノ集會席上ニ於テ債券売却委員會  
ヲ設ケルコトが認めラレタ、同委員會ハ債券ノ意義ニ就イテ  
大衆ニ説明シタコトハ大ニ多トスベキデアアル、四月十四日  
全先驅機關及官衙ハ党機關及コムンモル機關ノ援助ヲ  
受ケテ第十四回全ソ聯邦オンアウイアヒム債券ノ發売ヲ  
記念スル集會が開催セラレタ、オンアウイアヒム先驅

機關ハ債券売却委員會ノ市役議會ニ對シテ五月一日迄ニ債券ノ発割數字ヲ實現セシムベク義務ヲ負フタノテアル、而シテオソアウイアヒム會員ノコノ義務ハ該實ニ行ハレオハ地区ノ發賣ハ政府ノ決定シタ期間ヨリモニケ月半早ク終了シタ、最モ好成績デアツタノハオハ石油鉦オソアウイアヒム先駆機關ニシテ十三日間ニ二万八百留売却キタルガコレハ自營田ノ活動家ペトルーニシ及シベスヌイカ從事シタ建設事務所ノホプロフ、エルマコフハ十三日間ニ五千五百留自治団体事務所ノドルニケエラ、及モトリンハ十二日間ニ四千五百留地区通信事務所ノザグメンノフハ八日間ニ三千留地質調査事務所ノカトロフ、シエレブツオフ、ウオロニン等ハ労働者間ニ八日間ヲ五千六百留利権ノ州鉦業委員會ノケエリロフ、ホレタエラ、ウイキエニアニナ等ハ六日間ニ二万留オハ石油鉦火防団ノリウオフ、マエンカルド等ハ二日間ニ三千二百五十留何レモ売却イタノテアルオソアウイアヒム先駆機關ノ債券發賣カ好成績ニ行ハレタ結果公衆ノ國防が大イニ改善サレコノ債券發賣期間中ニオソアウイアヒム先駆機關カ十ニ創設サレタノテアル、サレドコノ先駆機關ニハ亦カ本質的欠陥が多ク存在シテ居ル例ヘバオソアウイアヒム會員ノ増加ハ遅々タルモノテアリ、自兵戦隊ノ実務ハ不充分デアリ、会費ノ納入ハ甚カ不成績デアルオソアウイアヒムオハ地区ソウエート及先駆機關ニ課

サレタ一九四〇年度ノ國防要員養成ノ任務ハ昨年ニ比シ  
非事ニ大ナルモノガアルカ本年第一四半期ニ於ケル計画  
ノ遂行ニ遺憾ナクテ未ダシテアル、オハオソアツイア  
ヒムハ本年第一四半期ニ於テ等閑ニ附シタヲ取返シ而シテ  
大衆ノ國防ヲ改善スルコトガ第一四半期ニ於テ課サレタ任  
務デアアル、オハ地区ノ國防向上ハ債券發売ノ時ヨリ初メテ  
為サレタデアアル

オソアツイアヒム州ソツエイト副会長

ニ、ガクレフスキー

五月二十一日付

蒸氣ナイ浴場

採油工場クラスニコフノ地区ノ第一工場ニ在ル浴場

ニハ何時モ蒸気が来ナイソレ故労働者疲レテ帰ツテ労働者達  
ハ入浴が出来ズ彼等ハ泣レタ体ニ奇麗ナ着物ヲ着ナケレバナラ  
ス始末デアル、鉱長特ニ工場長カガケツイナハ、入浴場が何時  
デモ入浴出来るヤツニ配慮スベキデアル

オペレーター助手      ソツイコフ

五月二十一日付

倶楽部ハ閉鎖サル

オハ石油鉱ノ倶楽部ハ屢々閉鎖サレルコトガアル、コレハ  
鉱長ノロマンチエニコガ節約ノ目的ヲ倶楽部ノ使用人  
ヲ他ノ社事ニ廻ハシテ居ル為デアルコトガ判明シメ  
倶楽部ニ技術學校、防空団ノ連中ガ務メルコトモアルガ  
コレモ今ハ多忙ノ為屢々引上げラレル状況デアル



俱樂部ヲ平常通り開館スルヤウニスル必要カアル

ブ  
ー  
ト  
フ

五月二十一日付

コモンモリスクニ劇場建設

全ノ聯邦技術専門委員会ハコモンモリスクニ劇場ヲ新築スル案ヲ是認シタ。コノ劇場ハ千人容ル、コトノ出来ルモノニシテ建築ハ一九四二年ニ終了スル予定デアアル。總費用ハ六百五十万留ナルが一九四〇年ニ準備建築作業ノ為五十万留支出セラル、答デアアル。

劇場ノ設計ハソ聯美術學校ノ志願者ベヌアキルホグラン、シリシテイン等ノ競争応募案ニ依リ建設セラル、デアアル。

(地方タツス通信)

(註)

五月二十一日付

新移民コルホズ員

シヤビムスカヤ五月十七日發地方タツス通信  
ペンゼンスギ州シヤビムスキ地ニ本年同地区ノコルホズ  
来往スベキ移民家族ノ約八〇%が到着シタルが彼等ハ  
政府ノ費用ヲ以テコルホズニ建テタル家屋ニ余往シタ、来住  
スベキ残余ノ移民家族ノ入ルベキ家屋モ建テラレテ居ル新  
築ノ各家屋ニハ附属ノ土地カ附イテ居リ本年亦迄ニハ家  
畜小屋モ建テラル、答デアアル。  
移民ハメリケン格三百匹、穀四百留宛受ケ、又肉、野菜等  
ノ食糧品ヲ支給セラル。各家族ハ殆ンド、反物、白米、靴、裘  
衣服類ヲ貰ッタ。家長等ハ目下家屋ノ整備、農具等



修繕サレテ居ナイ、コノ宿泊所ヲ管理スル、サハリニ、ネフ  
チ、編制部ハ修繕ヲ急カズモスカリオ村ソツエイト  
モ同様新ニ来ル人々ヲ宿泊セシメル為何ノ準備モ考慮  
シテナイノデアル  
セルコフ

五月二十日付

ハバロフスク市整備ニ一五。万留  
一九四。年度ハバロフスク市整備ノタメ一五。万留支出  
サレルガ此ノ内九。万留ハ新道路及歩道建設ニ三七万  
五千留ハ当面ノ修繕費ニ向ケラレル  
カールマルクス 街歩道ハアスファルトヲ舗装サレセルイセ  
フ街(ツナメンスクフ街ヨリセラフ街ニ至ル間)ハ石ニテ  
舗装サレルカリニン街ニ貨物輸送幹線路ガ新設サレル

豫定ニテ同街ノ改修カ行ハレ新橋梁建設中ニシテ大通ノ  
舗装並歩道ノ修繕ヲ終リツ、アル

市ノ緑化ニ莫大ナル支出ガ為サレル即チモロトフ工場地帯  
ニハ五百本ノ樹木ト五千本ノ灌木ヲ植エニ八五。平方米ニ亘  
ル芝生及花園ガ設ケラル同様植込ガアルジョニイキドセ工場  
地帯モ行ハレ、百貨店、国立銀行、旅館、食堂ノ花壇ハ掘返  
サレテ花ガ植エラレル事ニナツ、市街緑化ノ為メ支出サレル  
費用ハ三十一万三千留ノ予定アル、(ハマス地方局)

### 樺太航路ノ試験飛行

五月十四日ハバロフスク飛行場ヨリ樺太航路試験飛行ノタメ  
雙發飛行(ハ、エス、一〇、七)ガ帯敷飛行主エム、サハロフ操縦  
ニテ出發シタ、東組員ハ二等操縦士バビョーク、機関士スーリン

無線技士クリコフ、部隊通信長、政治部員ハバロフスキ  
ーテアル高合向、航行ノ使命ハ樺太航路ノ夏期航行開始ノ  
準備調査ト樺太ニ於テル勤労者等、新刊書籍、新聞紙及  
映画フィルムヲ送ルニアル  
(タス支局)

ハバロフスク医学専門学校ノスターリン奨学金受給候補者  
ハバロフスク医学専門学校學術會議ニ於テハ、スターリン奨学  
金受給候補者六名ヲ選定シタ

其ノ中ノ第一学年優等生、エリ、エヌ、ウエイスマンハ曩ニ學  
業優秀ノ故ヲ以テ、レーニン共産青年同盟十五週年奨学  
金ヲ受ケタメコトガアリ、第四学年女生徒イエ、ジ、ミ、ロ、レ  
ニコワモ同様、スターリン奨学金ノ受給候補者ニ選定サタ  
彼等ハ市會議員テアルガ優等ナル判断力ヲ有シ、大イニ公  
(三)

夫事業ニ尽シテナル

スタトリン奨学金受給候補者トシテ生徒マクホーバ、ノ  
イコフ、カルロフ及フカーフモ同様選定サレタ

オハ全聯邦レーニン共産青年団、

共産青年同盟州委員会ハ十五周年ニ當リ、オハ市共産青  
年同盟員ニ對シ、祝辞ヲ送り、党機関ノ指導下ニ今後共高  
一層採油ノ為斗ヒ且ツレーニン及スターリンノ党務ニ無  
限ノ忠誠ヲ尽ス精神ヲ以テ青年ヲ教養セラル、コトヲ確信ス  
ルモノナリト云ヘリ

樺太ノ進歩的企業

樺太州ニ於ケル進歩的企業及スタハノフ人達ハ新シキ生産的勝  
利ノ裡ニ北樺太、サヴエート化十五周年ヲ迎ヘタ、即チ五月十四日

ムガチニスギー鉱山ハ五ヶ月採炭計画ヲ期間前ニ遂行シ同鉱ノ  
最優秀スタハノアタル運搬夫ブルドコフ及流夫其ノ他ノ多  
数ノモノモ毎日ノルマノニ倍以上ヲ遂行シテ居ル  
ブルドコフ及キールノ兩名ハ樺太洲會議ノ實狀ヲ授けサレタ  
又アレクサントロフスキー鉱山テハ五ヶ月生産計画ヲ期限前  
著シク早期ニ遂行シタ即チ豫定外石炭五。地余ヲ採掘シ  
タ、按同組合サハレンスキー、ガロムイソロウイグ、サハリニス  
キー、トランスホルトニツク及クラスタヤ、ツツエスタ其ノ他  
モ年々生産計画ヲ予定以上ニ遂行セリ、

オハ樺太石油ノ黎明

東洋油産本部ハ樺太石油鉱業ノ労働者大衆ニ對シ干渉者ヨ  
リ解放サレタル樺太ノ歴史的記念日及政府ノ最高行賞ノ授け

ヲ奉ルト共ニ今後益々事業ノ發展ヲ望ム(東洋石油カリシニ)  
五月十八日付 サハリニスギー、ネフチヤニク 紙

親愛ナルイオシフ、ウイサリオノウイチ、スターリンハ

ソ聯邦勲章ヲ以テスル北樺太石油工業ノ前衛従業員行賞  
ニ関スルソ聯邦最高會議幹部会ヲ記念スル北樺太オハ市  
ノ勤労者全市民大会ハ我ガ勤労者階級ノ賢明ナルリ  
カトテアリ師テアル貴下ニ對シ熱烈ナルホリシエツイキ  
的挨拶ヲ呈ス、

オハノ石油工業前衛従業員ニ對スルコノ最高ノ行賞ハ北  
樺太カ日本ノ干渉ヨリ解放セラレタキ五周年トイフ意義深  
イ日附ト合致シタノテアル、

我ガホリシエツイキ党中央委員会及ソ聯邦政府側及キ



スターリン氏自身ノ不断ノ心勞ト助カトニヨリテ北樺太ハコノ十五年間ニ素晴シイ社会主義的工業島トナリ我社会主義國家ノ難攻不落ノ防塞ト化サレタオハ市ニ於テ新シキ石油工業カ勃興スルト共ニ社会主義的工業ノ多数優秀ナル建設者指導者及レーニンスターリン黨ニ献身的ニ忠勤シタル最高社会主義的労働ノ工人ガ輩出シタノデアアル

ソ聯邦政府ノコノ最高ノ行賞ハオハノ石油従業員タル我々ソ党及政府が常ニ配慮シ居ルコトヲ示スモノニシテ高將來ニ於ケルヨリ以上ノ好成绩ノ為我々ヲ激励スルモノデアアル

ソ聯邦政府ノ最高行賞ニ對シテオハ石油従業員タル我々ハ新タナル勝利ヲ以テ答ヘルデアラコトヲ貴下ニ對

シ誓フト共ニ我々八十倍ノエネルギーヲ以テ第三次スターリン五ヶ年計画ノプログラムヲヨリ一層好成绩ニ遂行スベク斗フデアラウ、而シテ赫々タル我社会主義母國ノ利害ノ為要求セラル、文ノ石油ヲ國家ニ提供スルデアラウ、全ソ聯邦共產黨(ホリシエウイキ)万歳

我ソ聯邦政府万歳

我々ノ凡有勝利ノ激励者組織者タル我親愛ナルスターリン万歳

五月十七日

全聯邦レーニン共產青年田州委員会へ

全聯邦レーニン共產青年田中央委員会ハ十五周年記念日ニ際シ樺太共產青年同盟挨拶ヲ述アルト共ニホリセウイキ

指導下ニ樺太共産青年同盟員が今後モ太平洋上ニ於ケル  
共産主義國ノ搖ヤナキ前衛タルサツエート樺太ノ石油ノ増  
産農業ノ拡張及ビレーニン・スターリンノ党務ニ無限ノ愛  
忠誠ヲ捧ケル精神ヲ以テスル青年ノ教養等ノ為メニ努メル  
アラウ事ヲ確信スルモノデアアル

全聯邦レーニン共産青年団中央委員会

オハ樺太石油トラスト

石油工業人民委員部ハ樺太解放十五周年<sup>(記念日)</sup>ヲニ当リ樺  
抄ヲ述アルト共ニ北樺太石油人大衆ニ村スル政府ノ行實ヲ  
慶賀スルモノデアアル 政府ハ樺太石油人田カ極東ニ石油基地  
ヲ創造セルコトヲ多トシタノデアアル石油工業人民委員部  
ハ樺太石油人が將來モ党及政府ノ注意ト配慮ニ答フルニ新  
シイ生産的成就ヲ以テシ生産的課題ヲ超過遂行シ且ツ極  
東ニ強カナル工業ノ恒久的根柢ヲ築クヘキコトヲ信ズルモ  
デアアル

全ソ連邦共産党(ホリヒツイキ)市委員会

及市執行委員会ハ

オハ並ニサツエード樺太ノ勤勞者ノ解放十五周年並ニ干  
渉者ヨリ其ノ後ニ於ケルサツエート政权ノ確立ヲ記念スル  
喜ノ日ニ当リ心カラ慶賀ノ意ヲ表ス政府時代ノ樺太ハ微  
役流刑ノ島デアリ多年干渉ノ掠奪者共ニヨリ掠奪サレ  
破滅サレタノデアアルガホリセウイキ党及樺太ニスライリ

ノ指導ノ下ニ歡樂ニ満チテ自由ナル共產主義的労働者優  
レタル工業的可能性無盡蔵ノ富ヲ有スル發達タル州トナリ  
勇敢ナルサウエート人達カ移住シテ居ル

世界ノ商人共々第三帝國主義的戦争ノ煽動者共々  
放火者共カ如何ニサウエート權太及ビ極東ヲ動搖セシメヤ  
ウトモ又彼等カ如何ナル計畫ヲ樹テヤウトモサウエート  
極東人ハ我カ政府、赤カ党、我カ民衆ト共ニ決ノ如ク聲  
明スルノデアアル、尊敬スベキ諸君ヨサウエートノ領土外ニ  
ソウエートノ領土カナカツト共ニ將來決ルベキモノモ裁判  
品トナルマキモノモ每一人ノ敵國軍人ト虽モ權太ノ地ヲ  
踏ミ得ナイデアラシクサウエート極東ハ過去、現在、未來ヲ

通シソウエートナルノ

濠洲タル權太ノ歳

我赤軍ノ歳

愛スベキ党首タリ、師タル偉大ナルスタリンノ歳

五月十二日付

母ノ幸福

我カ國ノ婦女、子供ハ幸福ナル党及政府ニ於テ又同  
志スターリン自ラカ我々婦人ニ関シ配慮シテ居ルノデアアル  
自分ニ就イテ云フナラバ私ハ九人家族ノ子供ガ七人テ一番下  
カ一才一番上ガ十七才デアアル以前ナラバ半乞食的生活ヲセ  
ネバナラナオツタデアラシク当時子供ハ赤ハレズ子供カ出生

レハ悲シト不幸ノ鉄出テアツタノガ人々ハ我が國ノ母親違  
ハ何ノ不自由モ心配モナイ。私ニ例ヲトルナラ既ニ政府ヨ  
リ二年目ノ扶助料ニ千留ヲ支給サレタ。私ハ共產主義的  
精神ヲ以テ小供達ヲ教育シ彼等ヲ我が勇敢ナル赤軍ニ加ヘ  
ルバク全オヲ尽シマセウ。我が國家ガ彼等ニ示シタ配慮ヲ  
無駄ニハシナイデアラウ。

赤旗勲章艦隊二十周年記念日ニ直面シテ

全ソ聯邦共產党ハバロフスク市委員会デハ、アムール  
赤旗勲章艦隊ノ二十周年記念日ニ當リ種々ノ催シヲ計画  
シタ。五月ニ土日、ゴリキー工場、アルシヨニギセ工場、モ  
ロトフ工場及交通人民委員部建設部ニ於テ名譽アル艦隊

ニ関スル軍事講演會、座談會カ行ハル、善ナルカ講演者及  
諸話者ハ艦隊ノ第一線ノ人々デアル又五月ニ土日ヨリ五月三十  
三日ノ間ニ於テアムール赤旗勲章艦隊ノ軍事的政治的殊  
勲者ト各企業ノスタハンプ主義者トノ會合ガ催サレル筈ア  
アル

(各)

ヒロビシヤンスキー劇團ノ逃業 (タス地方局)  
昨日午後國立ヒロビシヤン猶太ノエリ、エム、カカノウイチ劇  
場前屬俳優ノ最後ノ一団カサウエト、ウクタイカノ都市  
ニ向ケ逃業ノ為ヒロビシヤンヲ出發シタ一行ハ、キエフ、シビト  
ール、ベルディ、エース、ニコラエフ、カメネツン、パダリス、ケセル  
ニゴフ及プラスチックヲス訪問ノ予定デアル

当劇團一行ハ此ノ巡業ノ演題トシテ、ウリエーリ、アコースタ  
デービエ、マローチニツク、遊星、及牛乳ト密ニ其ノ他六ノ上演  
ヲスル。全参加俳優ハ若キ猶太自治州ノ伸ビ行ク國民  
藝術ヲ兄弟タル、ウクライナ共和國ノ勤勞者、為メ最善ヲ  
尽シ、実演スルデアラシ。

遊牧小舎 (シミット 五月十日發) (メス支局)

シミット岬一帯ハチユクチ人 (シベリアノ遊牧民)ノ多クノ  
養廉仮小舎ガアツテ遊牧サレテ居ル

彼等ハ不毛ノツンドラ地帯ノタメ、地方カラ地方ヘト数千ノ  
庶群ヲ追ツテ遊牧シナケレバナラヌ遊牧ノ住民ハ其ノ居所  
カラ久シキニ亘ツテ高シテ居ルノデアリ、仮小舎ノ中ニ新シイ

仮校舎ガ目立ッテ居リ、チユクチ人ノ子供十ニ名ガ學ニテ居ル  
彼等ハ自國語ヲ小學校程度ノ教育ヲ受ケ非常ニ興味ヲ以テ  
偉大ナル祖國ノ歴史ヲ生活ヲ學ニテ居ル此ノ學校ニ幼イアキ  
ル若イニコライ、マトウエーウイチ、メーフ教師ハ既ニ二年  
ニナルガ養廉人仲間非常ニ尊敬ト聲望ヲ云ヒ、彼等トハ  
直ニ親密ニ間柄トナリ得タ、最近此ノ遊牧小舎ニシミット岬  
カラ無線技士長イワン、イワーノウイチ、ヤクバイテースガ小サナ  
十頭立テ大棧ヲヤツテ来テ仮小舎ノ人々ニ高価ヲ見タコト  
ノナイ贈物ヲチオヲ届ケタソシテ其ノ晩、仮小舎ノ人々ハシ  
ミット岬ノ放送局カラノ放送ヲ聽イテ最近ノ國內外ニ於ケ  
ル色々ノ出来事ヲ知り、先王ガ全部ヲチユクチ語ニ通尺シ亦

音楽モ聴イダ彼等ハ始メテラヂオヤ音楽ト云フモノヲ  
知ツタノテアル

放送スル要ナレ

ラヂオニ依ツテ藝術的作品及古典作品ノ断片ヲ放送スルコ  
トハ聴者ニトツテハ非常ニ教育的教化的意義ヲ有スル一  
体オハ放送局ヨリノ放送ハ苛立シテラヂオニ聴クニ嫌  
悪ヲ催サセル、アランサーブアイヤンスキーハ断片ヲ何等ノ下  
準備モナク非常ニ歪曲セシメタ莫ガ多イコトヲ自覚シ乍  
ラ放送シテ牛耳例ヘバイトズフランスイエメスタ(選挙モ  
夕場所)ト云フベキヲウイホルヌイニメスタト云ヒ又ホ、  
タリーナム、イ、ホ、ウズゴリヤム(谷ニ沿ヒ丘ヲ登テ)シ  
ホ、タリーナム、ウズゴリヤムト云ツタリ、ミルゴロド  
(平和ノ町)ヲミール、ゴロドト恰モニ語ガ独立シテ  
居ルカノ如ク同ヲ置イテ發音シテ居ル

我が郷土史ヨリ

オハ、モスカリウオ線建設

一九三〇年ノ晴渡ツタ六月ノ或朝ノ事デアツタ丁度樺太  
バイカルノ青海原ノ彼方ヨリ太陽カ上ツタバカリノ頃一度  
ノ蒸汽船カ碇致ノ処テ荷揚ヲシテ居タソノ船ハモスカリ  
ウオ線建設路線開鑿踏査隊カ到着シタノカ夕方邊  
夕密林ヤアカサ地帯ヲ征服シタ踏査隊一行ハ疲勞シ泥  
ニ塗レラオハニ着イタノテアル、一行カ辛フビテ通ツテ来

夕細道が間モナク、コノ島ノ最初ノ鉄道線ノ道床ニナ  
 ルトハ想像モ及バナカツタコトアル併シ測量隊ガ線  
 路ノ踏査ヲ終ツタ八月初旬鉄道建設作業ガ即座ニ本格  
 化シタ、三七料ニ亘ル距離ヲ三ツノ管区ニ大別シ線路  
 ニ沿ツテ仮小舎ト廬舎ガ作ラレ三千人ノ勞働者ガ休ミナ  
 ク働イタ、モスカリウオカラニニ料ノ間ノ第一管区ニ老  
 ツ主カガ注カレタコノ線ニヨリテ必要ナ物資ヲ輸送  
 スベク汽車ヲナルベク早ク走ラス為テアツタ、最初ノ九  
 料ハ間モナク出末上ツタ平地ヤ地盤ノ良イ箇所下ハ  
 仕事ガ捗ドツタガ其ノ後ハ、マリーリ(アカザ屬植物)ノ切  
 リ抜ケノ困難ニ打ツカツタ、殊ニ堤防構築ニハ非常  
 ナ勞カヲ要シ人々ハ大キナ袋ヲ組ンテ飽クコトヲ知ラヌ  
 深淵ノ中ニ流シ込ミ、三〇米モアル長イ杵ヲ千立方米  
 ノ土地ニ亘ツテギツリ打チ込ンダ恰モ巨大ノ獸類ノ  
 頭ノ如ク沼澤ハ大規模ナ人夫ノ勞カト木材ト土ヲ  
 貪リ食ツタ、併シ遂ニ底ガ見エ堤防ハ平坦ニナリ  
 堅マリ始メタノテアル線路敷設工事ハ困難ナモノカア  
 ツタガ熱心ナ建設者ハ凡有困難ヲ克服シタ併シ中  
 中ニハ作業ノ完成ヲ信ジナイ者モ懶惰者、貪慾者  
 モ斗々、殊ニ困難ニ打ツカツタ時ニハ彼等ハ嫌悪ノ聲ヲ  
 擧ゲ道床掘鑿ガ困難ニナレバナル程休業者ヤ飲酒  
 者ガ多クアツタ、此処ニ鉄道ヲ敷設スルコトハ大体

不可能ナ事ト信ズル事同家サハ居マシ  
班員即チ真ノ勞働者青年共産同盟員共産党員カ決然  
トシテ貪慾者ヤ飲酒者ヲ檢キ出シコノ建設作業ニ食  
ヒム凡有腐敗ニ對シテ反撃ヲ加ヘタ然レニ民衆ノ敵ハ猶  
ソノ卑劣ナル行為ヲ止メズ建設作業ヲ失敗ニ終ラシメルカ或ハ  
停滯サセテ國家ニ損害ヲ蒙ラシメントシタ例ハバ大陸カラ  
ノレール 曲釘ノ輸送ヲ待チニ待ツテ居ル處ハ熊手ノ類  
ヲ送ツテ来テレール曲釘ハ民衆ノ敵ニヨツテアレクサン  
ドロフニクニ向ケラレタ  
嫌疑スベキ悪党共即チ反革命主義者ヤトロツキー、  
シノブイエフ主義者出身ノ者共ハプロレタリアノ裁  
判ノ報復ヲ免レ得ナカツタ勞働者達ハ共産主義者及  
青年共産同盟員ヲ中心トシテ競争ヲ演ジツ、緊密ニ団  
結スルニ至ツタ、  
ニコリスク、ウスリイスクカラ建設作業ノ為メ青年共  
産同盟班ガ到着シ班長ハ若イ真摯ナ建設技師ハロト  
フデアツタオハ青年共産同盟員ニヨツテ各班ガ編成  
サレ若クシテ強壯ナコノ班員ハ全建設作業ニ活氣ヲ共  
ヘル處ガアリ数日、数週、数ヶ月ト過ギ彼等ハ撓マ  
ズ働イタ、年寄連中カ休ンテ居ル間ノ僅カノ閑暇ニモ娛  
樂ノ為メ又大衆ノ文化的施設ノ為青年共産同盟員等  
ハ時々利用シテ働イタ、一台ノ貨車ヲ若イ女共カ乗ツ



テ歌ヒ始メルト若者共ハ之ニ和シ遠ク密林ニ元氣ナ歌ノ  
句ガ響キ渡ツタ、密林ハ静寂其ノモノデ、バラライカノ愉  
快ナ樂音ニ伴シテ踊ルト同ジ振ニオ喋リ女達ノ若  
イ足ノ小刻ノステップガ響キ渡ルノテアル、ソシテ朝  
六時ニハ踊手モ歌手モ一所ニナツテ仕事ニ取り掛カルノ  
テアツタ、

道床ノ前一面ヲ高イ丘ガ横切ツテ居ノデ、コノ丘ヲ切り  
尻キ堤防構築ニエヲ掘リ出サネバナラナカツタ、若  
イ作業班ガ非常ナ勇氣ト熱心ヲ以テ傷ク様ヲ見ル  
コトハ嬉シイモノデアアル、資ノ高イ頑健ナル若者ミハ  
イル、レフコズハ受持ノエ方場デ仕事ヲナシタルニ彼ノ

カハ左程強イトハ思ハレナイガ重イ鉄槌デ大キナ石塊  
ヲ除キ、エテヒマツタ、彼ト隣リ合ツテ、レオード、ベロ  
ガロフコガ付イテ居タガ彼ハ頑丈ナ体格ノ持主デ石塊  
ヲ果ニ軽カシケラ、掘返タエ石塊ヲ貨車ニ積ンダ、資ハ  
余リ高クナイガ丈夫デ元氣ナ青年共産同盟員ペル  
クマンハ、土塊ヲ積ンダトロツコヲ素早く堤防ノ端迄  
押シテ行キコロヨリ、若い女達が土塊ヲ運び出スノデアツタ  
作業班ハ標準ノ三倍四倍ヲ遂行シ共産青年同盟員カス  
チニエス、レフコトク、バラアロトフコ、ベルクマンノ如キハ  
八倍乃至十倍ヲ遂行シタ、コレハ真ノ共産主義的勞働デア  
リ、献身的ナ英雄的精神及剛勇ニ満チタ勞働デアアル、

捷マサル建設者達ノ努力ニ依ツテ鉄道敷設ハ大イニ進歩シタ  
当時ノオハ住氏ハコノ建設作業ヲ期限内ニ終了サセシメ  
シテ休日毎ニ未テ時間外労働ニ従事シタ候シ時ハ容赦  
ナク流レ土月トナリ雨ガ降り霜ガ降ル気節トナリ日毎  
ニ益々作業ニ困難ガ加ハル斗リデアツタ、濕ッホイ雪寒  
イ風ハ人々ヲ非常ニ苦シメタガ降服スルモノモ意氣消  
沈スル者モナク各自ハソノ持場ヲ齎レナカッタノテ  
作業ハ急速ニ進捗シタ、各自ハ何か故ニコノ工事ヲ急ガ  
ナケレバナラヌカヲ理解シテキタ即チコレハオハハノ  
物資ヲ確保スルト共ニ鉱区ハノ器具<sup>(具)</sup>他ノ設備ニ保  
證ヲ與ヘルコトヲ意味スルノデアアル、レールト曲釘ノ  
不足ノタメニ材料ノ所造凡テノ必要貨物ヲ急速ニ  
輸送シ其ノ後曩ノ線路ヲ分解シテオハ造敷設セ  
ネバナラズ又凍ツタ土地ニ枕木ヲ敷キ乍ラ雪ノ積ル  
造ハ如何ニシテモ線路ヲ敷設シテケレバナラナカツメノテ五  
三日モ四日モ続ク大吹雪ガ道床ヲ埋メ盡ス事モ屢々テ  
アツタ、暖イ衣服トテ雪ノ上ニ仮小屋ヲ建テ想像  
モ付カヌ困難ナモノデアツタ、併シ建設者ニ課セラレタ  
命ハ完全ニ達成サレタ輸送並ニ軌条敷設ノ為メ同志ハ  
チロフヲ指導者トスル、オハ鉱業ノ共產主義者ノ  
優秀ナル班及カスチエエフ、バロトフノ共產主義者  
同盟班ガ末タノテオハハノ貨物輸送ハ急行ハレタ

困難モ遠キ過去ノモノトナツタ。我々ハ感謝ノ念ヲ以テコノ建設ノ勇敢ナル英雄達ヲ想起スルモノデアアル。

樺太密林ノ中ヲ走ル鉄道ハ実現サレテハ石油斗争ニ重  
要ナル役割ヲ演ジテ居ルノデアアル。沼澤、路無キ密林

大吹雪、嚴寒、大キナ丘等凡テ堅忍不拔ノサカエト  
人ノ手ヲ征服サレ平坦ナ灰色ノ帯、如ク鋼鉄ノ軌道ガ

共產主義的労働ニ依ツテ覚醒サレタル地上ニ迄々ト横ハ  
ツテ居ル。コレハ我が州ニ繁栄ヲ齎ラスト共ニ新樺太人ニ

幸福ヲ其ハ機關車ハ進取的人物中ノ偉大ナル機關手  
ストーリーニ依ツテ動かサレテ居ルノデアアル。鐵道従業員

達ヨリ前進セヨ、社会主義的オハノ建設者達ヨリ前進  
セヨ、新シキ勝利ニ回ツテ。(イワン・エルシヨフ)

五月八日(サハリンスキネアチヤニツク)  
一九四〇年三月二十六日勤労者代表オハ市ソヴェート

執行委員会令第四號  
空襲警報化(信號)的空襲警報信號及全警報中

ニ於ケル住民ノトモニキ所為ト企業機關ノ指導者ノ  
勤作ニ関シテ

全露中央執行委員会並ニソヴェート人民委員会議  
ノ確認シタル命令公布ニ関スル(ロシア共和国法律類纂

一九三二年第一七號一八六頁)ニ基キオハ市ソヴェート執行委  
員会ハ左記ノ通り決定規定ス。

空襲警報並化學的空襲警報信辨規定

空襲防禦ニ向フ住民ノ組織的行動ハ次ノ信辨ニ依リ區別ス

一、B.T (ウエー、デー)ハ空襲警報 X、T (ハト、デー)ハ化學空襲警報並ニO、T (オー、デー)ハ解除

二、B、T (空警)ノ信辨ハ、サハリン、ネフト、トラスト、所屬ノ蒸汽々室及機関車ノ汽笛ヲ断続五分間吹鳴シ尚ラ才中継所ニ依リ五分間、空襲警報ト通報スル方法ヲモ執ル

B、T空襲警報信辨ヲ機関及企業ニ於テハ打鐘又ハ手振或ハ電氣ノ鈴ヲ五分間鳴ラシテ行フ、官衙ノ指導者ハ信辨ヲ發スル責任者ヲ指定スルモノトス

(六)

三、T化學的空襲警報ノ信號ハ毒物ヲ撒布セラレタル地区又ハ場所ノ為ニ行ハレルモノニシテ吊下ゲタル鉄、レール或ハコノ目的ノ為特ニブリキヲ以テ作ラレタル器物等ヲ打シ又ハハンド、サイレンヲ三分間置キニ三分間解除信辨迄鳴ス

四、B、T (空警)ノ解除信辨ハ前記蒸汽機正室及機関車ヨリ三分間吹鳴並ニヲカオニテ、警報解除ト三分間通報ス

五、遮光法夜間ノ消燈遮光幕ノ引卸シノ実施ヲ監視スル目的並ニ有機剤及企業ノ革命的規律保持ヲ強化スル目的ニテ警報ノアリタルトキヨリ晝夜通シノ

当直ヲ置クベシ、遮光幕ハ機關並ニ企業ノ指導者  
者ガ引却スモノトス

B・T(空襲警報)信拂アリタルトキノ行動  
一住民

防空関係ノ特殊勤務者ヲ除ク以外ノモノハ街路交  
通ハ遮断セラルベシ

街路ニ於テ空襲警報ニ接シタル勤務階級ノ  
者ハ左ノ通りニスベシ

ノ規律風紀ヲ遵守シ狼狽セズシテ各自ノ防毒面ヲ使  
用シ得ルバカリニ、用意シテ直ニ最寄ノ家屋

邸内、階段<sup>ハ</sup>地下室ニ夫<sup>レ</sup>等<sup>ハ</sup>防空係長ノ指揮ニ

從ヒ隱入ルマシ

2.事務所ニアル住民ハ左ノ通りナスベシ

イ、防毒面ヲ執リコレヲ使用シ得ル如ク、用意シ置

戸窓ヲ密閉シテコレニ丈夫ナ幕水ニ濕シタル被布

鑑戸等ヲカケ且ツ戸窓ノ間隙ヲニ重乃至三重ニ

張紙スルコト

ロ、火ヲ消シ暖房ノ火ヲ止メカスストーブ及燈火ノ炎

ヲ消火スルコト

ハ、食料品ヲ容器ニ入レル

ニ、豫備飲料水ヲ堅牢ニシテ密閉シ得ル空器<sup>ニ</sup>貯

置シ

3. 防空団ノ特殊編成ニ登録サレテ居ルモノハ其ノ勤務ノ場所ニ依リテ所屬当局ヨリ勤労免除セラレ速力ニ豫メ交代サレ居ル特別通行許可書(証明書)ヲ所持シテ規定ノ集合箇所ニ集スルコト
- ニ、税関人止業一取ノ場所ニ勤務スルモノ、行動規定ノ企業、鉄道機関ノ事務ハ之ヲ中止セズ
- 労働者並ニ勤務員ハ左記ノ通りナスベシ
- イ、防毒面ヲ用意シオクコト
- 只規律ト風紀ヲ維持スルコト
- ハ防空規定ヲ悉ク実行スルコト
2. 職務執行(小使、郵便集配人其他)中街路上ニ於テ警教信類ニ接シタルモノハ最初ニ到達セル箇所ニ入り街路交通ヲ中止スベシ
3. 技術者其他ノ成人ノ教習所生徒ハ防空班ニ編入サレ居ル者ヲ除キ其ノ持場ニ在リテ仕事ヲ継続スルコト
4. 中、初等学校ノ生徒ハ課業ヲ中止シ危険ナルバタイ場所、廊下或ハ特ニ指定シアル場所ニ避難スルコト
- 学校ノ教職員ハ警報發令中講堂トテ残り彼等ノ安全ノ為責任ヲ負フコト
5. 銀行、貯蓄銀行其他信用機關 B、T 信託ヲ發セシタル瞬間ヨリ O、T、ノ信託並取引ヲ中止スルコト
6. 訪問者ハ B、T、ノ信託ト同時ニ直々ニ金融機關ノ場

E-1745

主去り最寄りノ家屋邸内ニ隠ルベシ

又ハ浴中又ハシマツト使用申B、Tニ遭遇シタルモノハ之ヲ

中止シテ直ニ其ノ場ノ空隣接家屋又ハ邸内ニ隠ルコト

浴場シマツト場ハ防空機関ノ管理ニ入ルモノトス

商店、食堂、料理屋、市場ノ営業ハ中止セラル商

業企業ノ販賣人及幹部ハ戸ヲ閉シ食糧商品

ニ對スル毒物ノ被害ヲ防止スルコトニ努メ訪問者

ハ解除ノ信辨迄其ノ位置ニ残ルカ最寄りノ邸又ハ家

屋ニ移転スルコト

又遮蔽ヶ所(劇、映画)ニ於テ開幕中ノ演劇行為(演技)

ハ継続スルモ非遮蔽、舞台、広場、公園、夏季

(註)

劇場ニ於ケル演劇行為ハ同時ニ幹部ハ前以ツテ

計画ヲ觀暮ニ知ラシメ定員外ノ入場ヲナクスル法

ヲ構スル

又B、T信辨ニ依リ鉄道停車場ハ遮蔽シ、解除迄出

入ヲ中止ス

停車場<sup>(備内)</sup>在ル市民ハ鉄道防禦幹部ノ指示ニ依リ

居前ヲカヘル

三B、T信辨ノ際ノ運輸

全運輸ハ中止シ最寄りノ邸内ニ入り物ノ蔭ニ隠レル

馬車、自動車ハ其ノ載貨ノ都合ニテ入レ得サルモノハ

街路上ノ家屋其ノ他ノ造営物ノ蔭ノ側ニオクコトハ自

由テアル、但シ車馬、自動車ニ付テル人ハ其ノ運輸機材ニ残留スルモ宜シク、ソノ場合一人トス  
防空班、配置シテアル十字路、橋梁、広場ノ中央ニ居ル事ハ絶対禁ズ

2. 特殊運輸ヲ用防予、急接ハ留メラル、コトナク市ノ各方面ニ故障ナク通交セラル、モントス、(毒物、被害アル地区ヲ除ク)

3. 市ノ街路上ニ居ラルモノハ民警、軍隊、防空班員、衛生運搬班員、特別通行証ヲ有スル公衆取締班員等トス

4. 火災發生ニ際シテハ市ノ防火団企業並ニ家庭防火班ニヨリ消火セラル

5. 消毒作業ハ特別班ニ依リ行ハル

6. 化學的空氣ヲ受ケタル時ノ水ノ使用ハ衛生化學班ノ許可ヲ得テ初メテナスモノトス

7. 總テ電話機並ニ電話局ハ警報中警報関係事項ノ、ニ使セラル

8. 官衙並ニ企業ノ指導者ハ信紙ヲ小板ニ書キ易スキ場所ニ掲ケマシ

9. 本防空襲警報並ニ化學的空氣襲警報規則ニ違反シタモノハ一〇〇留以下ノ罰金又ハ一ヶ月以内ノ強制労働ニ處セラル



トス、  
本規則ノ遂行ノ監視ハ民警機關之ヲ為スモトス  
但本規則ノ效力ハ サフネクナヤンニク紙ニ發表ノ日ヨリ

發生シ オハ市及オハ地方ニ一々年間效力ヲ有ス

勤勞者代表 オハ市執行委員会代表

タランツエフ

勤勞者代表 オハ市執行委員会書記

カルホフ

文責 發行者 ベー、ペー、シャートロフ

五月六日 サハリンネフチ

技師ハ助力セズ

二月中ニ余ハエハビ鉱区ノ前技師長 コステイーン氏ニ  
油井試掘ノ際ニ流失スル石油ヲ採集スルコトヲ合理化  
スルキ 櫻葉ヲナシタ コステイーン氏ハ採油所主任ノ  
トシイコフ並ニ事業所ノ支配人 コノワローフ氏等ハ櫻葉  
ヲ檢討シ採油器ノ構造ハ余リモ持テ運ビニ不便ニ  
不適當ナルヲ認メ余ニ善後策ヲ加テ  
之ヲ又大分ニ改テ私ハ櫻葉ヲ改作シテ再度檢討ノ為櫻葉  
シタカ既ニトラスト支配人 アレズギン氏ハ櫻葉ヲ採用シ  
支配人ハエハビニニケノ採油器ヲ用意スルコトヲ櫻葉シ  
タ然ルニ石油鉱ハ今迄持運ビニ不便ナル構造ナルヲ口實

E-1745

トテ何等ナスルニハ何タル事カロラ、何故技師等ハ  
掘油器ヲ定全スルコトニ助カセムカラス

デー、イー、コルチンスキー

空家ノ事務所ヲ見送リスルニ、マスオリツオノ技術補

給所ニハ三人ノ番人が居リ以前令所ノ事務ヲシテ居

タ其処デハ特別着美ハ山ヤスツ、手袋モソ外套ヨ各

人ニ與ヘ月ニ百五十留ヲ與ヘテ居タ、又テ今ハ倉庫ニ薪

カナクナツテ空家ノ事務所ヲ番シテ居ル状也、  
理王彼等當番ノ時ハ上役ハ忍ンド来ナイテ大抵還

居ル始末ヲ  
サハローロフ

如何ニホーリングノ掘鑿班ヲ利用シテ居ルカ

樺太石油ノ掘鑿事務所ハ掘鑿井掘鑿ノ本業ノ上事

ニ四ヶノ掘鑿班ノ内僅カニ二班ヲ利用シテ居ルノコトアル

他ノ班ハホーリングトハ無関係ノ仕事ニ従事シテ居ル

其処デ既定ノ計画ヲ齟齬来サザル標命ハ次ノ如キ業

ヲ提供スル

或ル班ハ油井掘鑿用工作機械ノ掘付ト準備ヲ切換ヘ

トキテアルコレヲ全部ナストセバ正方形区域ニ試

掘坑道ヲ作ルコト掘鑿槽ノ足場斬ニヨリ油井パイプ

ヲ全部集メテ引入レムコト掘鑿器ヲ下口ス為換管ヲ

準備スルコト全部準備ナシテカラコレ等ノ標命ヲ發

ハルコト等カハ要シラン

E-1745

各振整修廠ニテ、掃油器具、オパールヨ...

次ノ班ヲハ現ニオハ概区ニ於テ取外シタ後ニナツテ居...

而シテ建設事務所ハホーリング材料ヲ待ツ間ハ現ニ...

カトホトシエワイロフ

Table with multiple columns and rows of handwritten Japanese text, possibly a ledger or inventory list.

E-1745

一三 帰還者名簿

住	所	帰還地	職	氏名	年令
岡山縣岡山市	仁王町三番	東京	職	小川重太郎	五七
青森縣弘前市	本町一四	東京	社負	村田青三郎	四一
徳島縣海部郡	川内町	東京	職	池本季龜	四五
東京市杉並區	馬橋四ノ五四五	東京	職	岡勝司	四六
秋田縣秋田市	丰秋休下町三九	東京	職	伊東周平	三八
福岡縣福岡市	城區橋通ノ五六	東京	職	城戸崎益隆	三二
滋賀縣栗原市	上草野村	東京	職	松田宗一	三四
東京市麹町區	下ノ番町一七	東京	職	羽生田隆二	二九
新潟縣長岡市	新町	東京	職	飯田十七八	四五
秋田縣南庄郡	金谷町	東京	職	渡辺重三	三一
北海道	釧路市之町三六	東京	職	渡辺千昭	二二
東京市小石川區	荻木町一九	東京	職	石田松藏	四二
新潟縣新井郡	三田村	東京	職	小西善三	三五
秋田縣	大館市	東京	職	相見鉄治	三六
秋田縣	金谷村	秋田	産負	小川義備	四八
秋田縣	大館市	秋田	左官	菊地兵吉	三三
北海道	釧路市	北海道	通訳	合田浅吉	五四
北海道	釧路市	北海道	記録手	高橋新吉	三〇
北海道	釧路市	北海道	夫頭	山崎輝司	二二
秋田縣	大館市	秋田	手	小笠原忠三	三五
秋田縣	大館市	秋田	手	大島新三郎	三九
秋田縣	大館市	秋田	手	大島忠治郎	五一
秋田縣	大館市	秋田	手	現玉勇治	四四
秋田縣	大館市	秋田	手	若月徳次	五四
秋田縣	大館市	秋田	手	小栗準治	四六
秋田縣	大館市	秋田	手	川本源太郎	三一
秋田縣	大館市	秋田	手	岩本竹松	三二
秋田縣	大館市	秋田	手	岩野熊吉	三四
秋田縣	大館市	秋田	手	見玉枝司	三八
秋田縣	大館市	秋田	手	高崎一郎	三一

E-1745







和歌山縣海草郡菅村今大田四四八	和歌山	大田	恒次郎	三五
岩手縣岩手郡長井今金崎等四地割五二	岩手	田中	小太郎	三〇
朝鮮京城道奉恩郡善德邑龍興里二七	朝鮮	李	奉樂	二六
愛媛縣松山郡志保町志保之八三五	愛媛	山本	茂	二二
鹿児島縣本庄郡伊仙村今吉里三五	鹿児島	友良	正一	二六
北海道室蘭市本所一〇二	北海道	前田	寅之祐	二七
朝鮮平壤府水玉里九	朝鮮	茨	成統	二三
兵庫縣飾磨郡余部村宗法寺六八	兵庫	浅野	一	二四
鳥根縣高田郡西郷町今中野里四	鳥根	松宮	保一	二六
福岡縣平野郡善導寺村今世田五三	福岡	吉田	克臣	二一
靜岡縣浜松郡龍池村高田五〇八	靜岡	長谷川	繁	二四
長崎縣南島原郡波佐村楠原都一五〇	長崎	檀畑	久美	二四
名取七郎郡志保町上林一九四	能本	井上	直久	二四
高島縣高島郡三井村今海防七二	高島	森田	友次	二一
鹿児島縣高島郡志保町今志保	鹿児島	森	先氣	二五
熊本縣上郡本所今本所二〇八	熊本	中内	實一	三八
長崎縣長崎市高島町二	長崎	中村	謹一	五〇
朝鮮京城道南陽府南陽郡今南陽三〇八	朝鮮	高	基亮	二七
石川縣鳳凰郡大町今川島一	石川	大橋	順吉	一八
長崎縣長崎郡津佐町乙三三三	長崎	永野	茂敏	一八
青森縣弘前市南橋町五二	青森	野呂	善雄	三五
山梨縣武蔵郡鎌倉司村六〇八三	山口	老田	秀吉	四二
北海道函館市大倉町一	北海道	佐藤	秀吉	三六
北海道函館市柳町七	北海道	近江	辰之進	三七
北海道函館市高島町三〇四	北海道	辻	長重	四九
北海道函館市十軒町八	北海道	中村	祐藏	五〇
北海道函館市鶴岡町三五	北海道	島	由藏	四五
北海道函館市栄町一五四	北海道	石川	由藏	三九
岩手縣九戸郡伊保内村一	岩手	及川	岩吉	五一
秋田縣本荘郡村山町新田今富岡六二	秋田	田森	未吉	四一
秋田縣南庄郡原本村今由谷五四二	秋田	渡部	久治	四四

E-1745



